

日本建築協會雜誌

大正六年九月十四日（第三回）創刊
大正八年十月廿五日發行（毎月一週廿五日發行）

第十號

第二輯



大正八年十二月十五日

歴代の会誌表紙 Vol.2

特集 第24回会員作品“私の空間作法”

2018 02

Vol.99 No.1151

建築と社会

Architecture and Society

日本建築協会

電100

since 1917.03.30

日本建築協会は創立100周年を迎えました

第1回片岡安賞 (日本建築協会論考コンクール)

募集テーマ：これからの建築と社会
—その関係を問う

1次審査通過者による 公開プレゼンテーション

日本建築協会は創立100周年を迎えたのを機に初代会長「片岡安」の名を冠した論考コンクールを実施し、優れた論考を顕彰いたします。昨年10月末迄に提出された論考に対して11月から第1次審査を進めております。その1次審査通過者による公開プレゼンテーションは、最終審査に向けた重要な場となります。プレゼンターの熱のこもった発表をぜひ会場で聴講下さい。

日 時 2018年3月10日(土)
13:00~15:00 (予定)
※12:30より開場

会 場 綿業会館
新館2階中会場
(大阪市中央区備後町2丁目5番8号)

審査委員

舟橋國男 (委員長・大阪大学名誉教授)
岩前 篤 (近畿大学教授)
花田佳明 (神戸芸術工科大学教授)
山浦晋弘 (安井建築設計事務所)
勝山太郎 (本会編集委員長)

■定 員 50名 (申込先着順)

■参加費 無料

■申込み

- ①催し名 公開プレゼンテーション
- ②氏名 (ふりがな)
- ③職場名または学校名
- ④住所
- ⑤連絡先電話番号
- ⑥E-mailアドレス

上記項目を明記しFAXまたはE-mailにて
下記までお申し込みください。

■申込先

(一社)日本建築協会
(担当: 入谷)
TEL: 06-6946-6981
FAX: 06-6946-6984
E-mail: hensyu2@aaj.or.jp

■締切り

2018年3月3日(土)

会場へのアクセス



若き創造者たちへ

「第65回青年技術者顕彰」のご案内

日本建築協会では、昭和29年から「青年技術者」を表彰してきました。これは、35才以下の優秀な設計者、技術者、研究者等を対象とするもので、若手建築技術者のいわば登龍門として定着しています。

今年も、青年技術者選考委員会を設けて、これまでどおり、計画・設計・構造・設備・施工およびその他の分野について青年技術者を表彰します。

選考は有職者による選考委員会が行い、選出された方は、本会総会での表彰、「建築と社会」への掲載等を予定しています。建築界の様々な分野で活躍されている皆様の積極的なご応募をお待ちしています。

応募提出規定

1. 応募できる人は満35歳（平成30年3月30日現在）以下の青年技術者であって、本会個人会員に限る。
2. 原則として、すいせん者を併記する。
すいせん者は被すいせん者（青年技術者）の勤務する組織の上司か上長とする。すいせん者が学校教官である場合はこの限りでない。また本人が組織の代表者である場合は自せんとする。
3. 応募分野は特定しない（建築に関するあらゆる分野を対象とする）。応募者は、たとえば計画、一般設計、住宅・インテリア設計、構造、設備、施工、技術開発、行政、情報、コーディネート等の分野にあって、なしとげたすぐれた実績について、下記の所要資料を1部、本会に期日までに提出する。
4. 提出された資料は「青年技術者選考委員会」において選考する。
5. 「青年技術者選考委員会」において選出された青年技術者は本会総会において表彰し、「第65回青年技術者特集号」（平成30年7月号予定）に掲載する。

6. 提出資料

■応募用紙

本会事務局で発行、またはホームページからダウンロードして下さい。

■略歴

本人の氏名、生年月日、最終学歴、業歴、作品経歴など

■選考資料

A：業績資料（A3版5枚以内／書式は任意）

- ① 設計の場合——鮮明な写真、配置図および主要平面図、概要、設計要旨、その他設計内容を説明するに十分な資料
- ② 計画、構造、設備、施工の場合（それぞれの設計計画なども含む）——上に準じた資料
- ③ 上記以外の分野の場合——それぞれの分野にふさわしい資料

B：青年技術者の思い（A4版2枚以内／書式は任意）

上記業績資料に記載した業績において、本人が特に貢献した部分、または力量が活かされたと思われる部分の詳細な説明をしてください。また、本人の建築、都市、環境などに対する考え方、取り組み姿勢や将来展望等についてまとめてください。文字だけでなく必要に応じて図表、写真等も用いてもかまいません。ただし、応募者本人の執筆に限りです。

この資料は、応募者の考え方を知る上で大変重要と考えていますので、十分配慮をしてください。

7. 提出期限 平成30年3月30日（金）

8. 提出先 （一社）日本建築協会「青年技術者選考委員会」

〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31
大阪マーチャンダイズ・マートビル7階
電話 06-6946-6981 FAX. 06-6946-6984
E-mail: jiggyoka@aaj.or.jp

9. 提出方法 郵送（当日消印有効）または持参

10. 青年技術者選考委員会（予定）

委員長 勝山 太郎／㈱日建設計設計部門理事
グループマネージャー設計部長

委員 岸田 文夫／㈱竹中工務店開発計画本部長（西日本担当）
長尾 健／長尾健建築研究所代表
橋本 修／㈱昭和設計執行役員プロジェクト推進室室長
松原 茂樹／大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻准教授

金尾 伊織／京都工芸繊維大学デザイン・建築学系准教授
榊田 洋子／㈱桃李舎代表取締役
井村 隆／清水建設㈱関西支店設備設計部設計長
小倉 良友／㈱日建設計エンジニアリング部門
設備設計グループ理事副代表設備設計部長

山口 善史／㈱大林組大阪本店建築事業部生産技術部長
山辻 直樹／大成建設㈱関西支店建築部購買管理室課長

日本建築協会中国支部
主催建築工事
実務講習会

この講習会は、建築CPD情報提供
制度プログラムです。
建築関連CPD（6単位）

■講習会会場

- （広島工業大学 広島校舎）
・広電市内電車 袋町または中電
前下車
・広島バス 平和記念公園前下車



日 時 2018年 2月15日(木)
9:30~17:00
会 場 広島工業大学 広島校舎
広島市中区中島町5-7
定 員 60名
受講料 15,000円(含テキスト代 税込)
※テキストは、当日配布させていただきます。

■申込方法

FAXまたは中国支部へ直接

- ①講習会名
- ②〒・住所
- ③受講者氏名（フリガナ）
- ④事業所名
- ⑤担当責任者
- ⑥電話番号・FAX番号
- ⑦受講料支払方法（銀行振込等）
- ⑧CPDを申請される方は、申請先の
団体名をお知らせ下さい。

受講料は前払制となっていますので、
併せて銀行振込等で納入して下さい。
受講料入金確認後、受講票をお送りいた
します。

■申込締切 2018年 2月 7日（水）
（ただし定員になり次第
締切）

■受付時間 9:00~17:00
（土、日、祝除く）

■申込先

（一社）日本建築協会 中国支部
〒730-0805 広島市中区十日市1-1-9
（相生通り鷹匠ビル4階山陽工業(株)内）
TEL 082-232-6471
FAX 082-291-2233
E-mail: info@aaj-chugoku.jp
URL: http://www.aaj.or.jp

<振込先>

- 広島銀行
本川支店（普通 3424438）
（シャ）ニホンケンチュウキョウカイチュウゴクシブ
一般社団法人日本建築協会中国支部

■趣旨と内容

- 本講習会は、官公庁・設計事務
所・建設業をはじめ、設備・営繕な
ど幅広い分野の技術者を対象とした
ものです。
- とくに取り付きにくい施工計画と
仮設見積、現場実務の基礎である積
算業務に重点をおき、講義します。
- 都市環境の変化に伴う法令・基準
の改正なども加え、技術の進歩に即
応した知識の習得をはかります。
- 「積算業務」では具体例により、
その着工準備から完成に至るまでを
わかりやすく解説します。

施工計画

井上 昇 氏

清水建設(株)広島支店
工事長

適切な施工計画を立案できることが、
建築現場技術者の必須条件です。
安全で、経済的な施工計画を解説しま
す。

仮設見積

尾野本 悟 氏

広島工業大学
教授

仮設工事費は、一般には非常に把握
しにくい面があって、つつい単位
面積当たり、あるいは請負金比率の
みで処理されがちです。
施工計画に基づいた合理的で迅速な
見積方法を解説します。

積算業務

八道 憲一 氏

鹿島建設(株)中国支店
次長

見積業務の中で基本となるのは、数
量積算です。この手順、基準を基本
に、より合理的で正確な積算業務を
解説します。

建築と社会

Architecture and Society

Journal of the Architectural Association of Japan

日本建築協会

2018 02

Vol.99 No.1151

■特集予告

●3月号／東海支部特集

●4月号／働き方と価値：社会に繋がる多様な
ワークスタイル

今月の表紙

大正8年1月に『関西建築協会』から『日本建築協会』へ改称され、会誌も第2集より『日本建築協会雑誌』と改題、1月号に「改題の辭」が掲載されています。

この表紙は「表紙圖案懸賞募集」に応募された98通から選ばれた特選（会員 浅井新一氏）の図案で、1月号に入選作品を掲載するとともに、すべての応募作品は、大阪市中央公会堂で一般展示されたようです。

第2集の記事は、片岡会長の「東京市大改造論」をはじめ、都市計画に関する論考や生活改善、住宅改造などの記事が多いです。また第1集の半ばから連載されている『京都古建築観』や『東大寺建築史』など、新しいものだけではなく古い建築についての論考も掲載しています。

「住宅観」についての聞き書き（インタビュー）がほぼ毎月掲載されていますが、「名家（名士）」よりも「女流（女性）」の掲載号の方が多く、話言葉で掲載されているのが面白く感じます。

特集 第24回会員作品 “私の空間作法”

Colors — アーチの森2017— ●水谷俊博+武蔵野大学水谷研究室	8
遊牧民の家 ●新居照和・ヴァサンティ	9
大正ロマンの家 ●岸	10
職住一体で自然を楽しむ保養所のリノベーション ●貴志泰正	11
ありのままを引き継ぐ... ●太田栄治	12
緑・水・空と一体化する建築 ●平井浩之	13
松ヶ崎の町家 ●平尾和洋	14
リノベーションを通じて環境に寄り添う ●吉永規夫	15
半島 新築 共同住宅 ●塚口洋之	16
Whale House ●村重保則現代建築設計事務所株式会社 東京事務所	17
TWIN—CUBE 研究者と来訪者の交流を最大化する建築 ●平井昌志・古市 理・鬼頭朋宏	18
一つ屋根の下に集う開かれた研究所 ●関山泰忠	19
使い手の柔軟な発想を惹き出しオフィスに多様な価値を生み出す 「無用の用」の空間 ●平井浩之・本家公巳子	20
医療環境の変遷に対応する新世代の内科病院 ●中尾勝悦	21

会告	論考コンクール公開プレゼンテーションのお知らせ 若き創造者たちへ「第65回青年技術者顕彰」のご案内 建築工事実務講習会（中国支部）	1 2
作品作風	大光電機技術研究所	4
gallery	距離感と情緒 ●角田暁治	6
法令コーナー	京都市京町家の保全及び継承に関する条例の制定 ●関岡孝緒	22
設備の頁	コイズミ緑橋ビル DALIを軸にした省エネオフィスビル ●松倉想馬	23
Member's Forum	U-35委員会企画「設計者のしごと」 —組織で働くU-35世代と建築— 活動報告	24
新製品レビュー	新耐震天井工法 ダイケンハイブリッド天井 ●大建工業株式会社	26
information	特別展 鑿の華—光村コレクションの刀装具—／生誕120 年 東郷青児展 夢と現の女たち／京都工芸繊維大学 大学院建築都市保存再生学コース 保存再生学特別研究 会 近代文化遺産における活用の意味を考える／コレク ション展2018—冬春 特集展示 はじまりの景色／至上 の印象派展 ビュールレ・コレクション	28
月間の動き	平成29年12月	30

所在地 東大阪市角田
敷地面積 4,983.46㎡
建築面積 2,302.77㎡
延床面積 3,849.95㎡
構造規模 RC造+S造 地上2階
工期 2016年2月～2017年3月
最寄駅 近畿日本鉄道けいはんな線 荒本駅
撮影 清水向山建築写真事務所/稲住写真工房



外に閉じたモノリスなファサード



建築と照明の境界を曖昧にするヒカリタイル

大光電機技術研究所

建 築 主 大光電機株式会社
 設計・監理 大林組一級建築士事務所
 施 工 大林組

■照明のような建築、建築のような照明

照明メーカーの新たな開発拠点となる「ひかり」をテーマとした研究施設である。自然光と人工光の所作・佇まいを追求し、明るさと暗さを対峙・調和させることで、多様な「光」が振る舞う独創的な空間を目指した。装飾性を廃したモノリス的なファサード、自然光と「ヒカリタイル」が発する人工光の共演など、建築に照明が付加するのではなく、一体化することで、建築と照明の間にある境界が消えたデザインを目指した。

■相反する要求プログラムをシンプルに解く

前面道路からの騒音や振動等、厳しい敷地条件のなか、快適で働きやすい環境をどう実現するか。窓が必要ない暗室仕様のラボ特性を手掛かりに、構造体となる壁で建物を囲み、周辺の環境負荷要素（音・振動・景観）を一旦遮断した。建物中央に守られた外部環境（光庭）を挿入し、光と空気をワークスペースに取り込み、外からは想像できない快適なオフィス環境を実現した。敷地環境を丁寧に読み込み、相反する要求プログラムをシンプルに解くことで、敷地と人に寄り添うデザインとした。

■「ひかり」のデザイン

建築と照明器具が一体化することで創り出す様々な「ひかり」のデザインを追求した。彫塑的な外壁やトップライト下に配置した本実型枠仕上の耐震壁は、自然光に照らされてその表情を変えていく。新開発したLEDライン照明器具は、場所ごとの環境に合わせて、設置手法にバリエーションを与えることで意匠性を統一させ、建物のアイコンと化した。天井には細心の注意と敬意を払い、光しか存在しない天井を突き詰めた。

■無限のヒカリタイル

エントランスで来訪者を迎える「ひかり」は記憶に残る光の演出を狙い、正面の大きな壁自体が発光する光壁とした。発光面を敢えてタイルのような小さな単位とし、目地をデザインの一部に取り込み照明器具が建築と一体となるヒカリのタイルに辿り着いた。タイル表面に緩やかな膨らみをもたせ、点灯時と消灯時で異なる表情を与えている。3396個のヒカリタイルは、個別制御により無限の変化と可能性を秘めた壁面（照明）となった。

（東井嘉信・西森史裕／大林組）



守られた外部環境



光しか存在しない天井



多様な光の在り方



宵に浮かぶ大光電機の光

ま
ち

建
築

ひ
と

gallery

距離感と情緒

建築家

角田 暁治

建築とそれに関わる人にとって、様々な場所における距離感とそこから生み出される感情の如何が重要だと考えています。外部においては街並と建築や建築相互の距離感、外部と内部の関係においては開き方と閉じ方、そして内部においては空間相互の関係といったことを、求められる空間の質を読み解いて丁寧に設計することで、様々な感情を生み出すことができると考えています。建築の存在意義の一つは人の情緒にコミットすることだと思いますが、そのために実体のある建築要素の操作をとおして個々の場所に相応しい関係性を生み出すことを目指しています。

作品1：GELENK TAKEDA（2013）
「壁と格子と断面操作による距離感の増幅」

作品2：PLAZA KIT（2007）
「街とキャンパスをつなぐ」

作品3：鞍馬口の家（2014）
「「市中の山居」として」

角田 暁治（かくだ あきら）

1964年 京都市生まれ
1987年 京都工芸繊維大学卒業
1989年 同大学院修士課程修了
1989年-1998年 竹中工務店
1998年 アトリエ・K一級建築士事務所設立
（後にアトリエ・K建築研究室一級建築士事務所に改称）
現在、京都工芸繊維大学准教授
一級建築士／博士（工学）

撮影 古川泰造

企画編集：鞆野淳司（作品作風小委員会）



GELENK TAKEDA



PLAZA KIT



鞍馬口の家



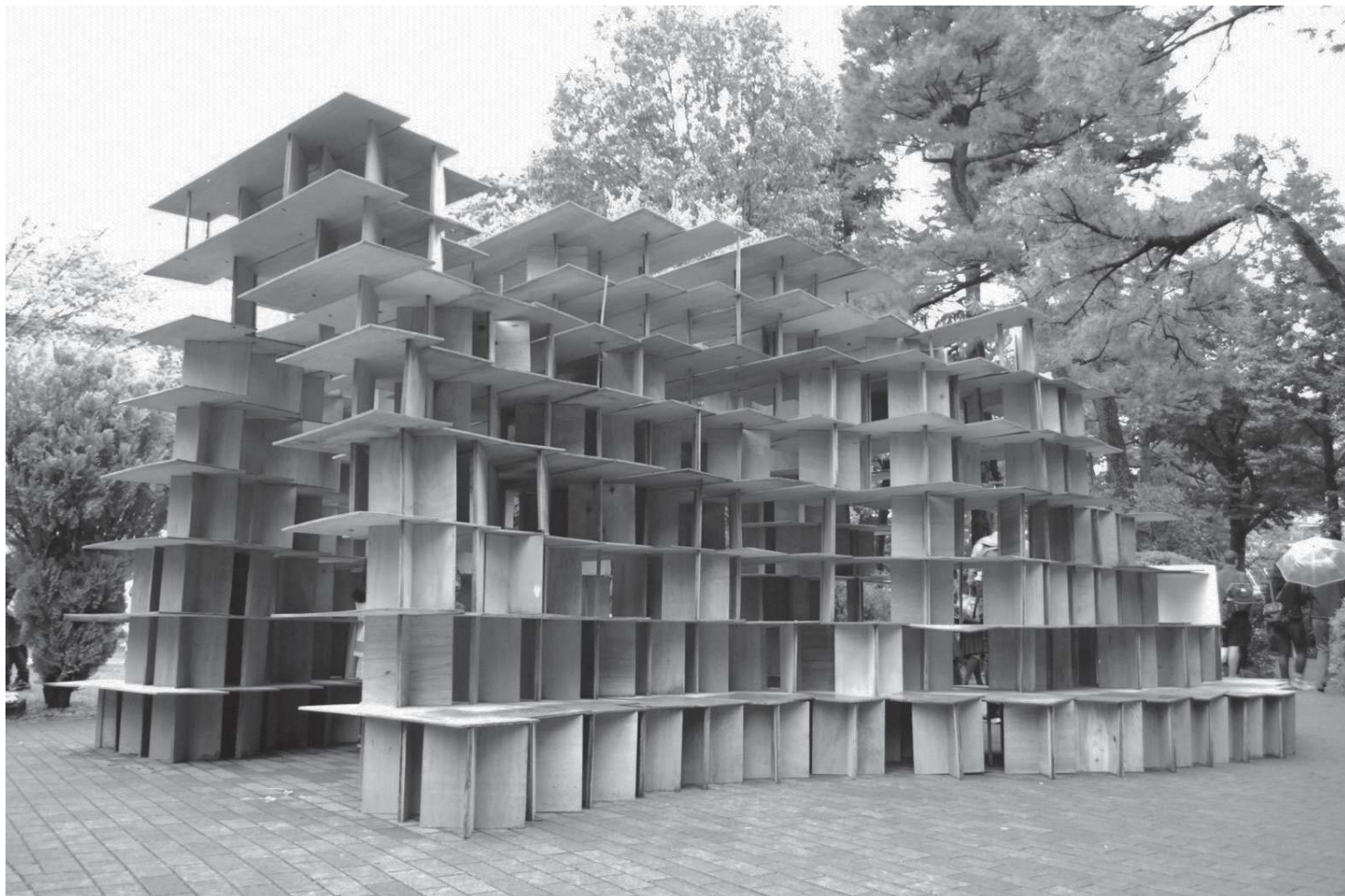
Manners of Creating Space

建築は様々な人の想いを伝達する媒体だということができるでしょう。そこには建築と社会の多様な繋がり方を見てとることができます。「建築と社会」誌は、建物が社会とどのようなことばで関わり合えるのか、建築と社会のコミュニケーションの多様性を伝える使命があると考えています。本特集では、会員のみなさまの「空間作法」を共有し、未来の創造に活かしていきたいと考えています。



Colors –アーチの森2017–

水谷俊博＋武蔵野大学水谷研究室



水谷研究室制作メンバー

久下谷結、末吉花帆、秋元晴奈、
藤井海渡、伊藤六芽子、桑野不尽
丸、山地幸瑛、島田佳奈、鈴木翔、
平田基信、松本有加、前田鮎実、
太田寛子、佐々木陽平、福岡真衣、
安西大和、大塚玲奈、大熊一輝、
加藤 薫、新橋大地、廣瀬保乃夏、
松野里紗、三浦静佳、柳原崇太、
山本百花、沖山海斗、長嶋柊平、
馬場剣太郎、渡辺幸多、窪田基宏、
佐藤美美佳、澤崎優希、山内由吏、
水野裕太、滑川美有、井上麻弥、
大澤早紀

西東京市内にある大学のキャンパス内に計画をした木造仮設建築物の交流スペース。訪れた人々をキャンパスのさらに奥へとつなげるトンネルのような形態をなし、“建築の中にある人々の居場所”を建築物全体でうみ出すような、場所づくりを目指した。

建築物は350mm×340mm～350mm×1820mmの構造用合板のみを基本部材として構成されているのが特徴である。施工は完全なセルフビルドでおこない、材を落とし込みの要領で積層させるといふ、特殊な工法を使うことなく誰でも施工に参加できる手法をとっている。壁面を構成する材は各層を角度をずらして組むことにより、場所によって建築物の骨格を通して見える景観に変化が付き、内部にいる人々は多様な彩りのある視覚空間体験ができるようになっている。建築部内には座ることのできる場所がいくつか存在し、建築物本体と人々が一体となって、集い交流を楽しむことのできる空間を創出している。

(水谷俊博)

Colors –アーチの森2017–

所	在	地	東京都西東京市
施	工		武蔵野大学水谷研究室
建	築	面	積
構	造	規	模
竣	工		2017年10月
撮	影		武蔵野大学水谷研究室

遊牧民の家

新居照和・ヴァサンティ 新居建築研究所



マサイ族のような家に住みたいとアフリカ民族学研究者が訪ねられた。敷地は、吉野川第十堰南岸の豊かな農業地をもつ佐野塚集落の一画である。北隣に大きな楠が並ぶ佐野塚天満神社があり、秋祭りは獅子舞が奉納される。この地域空間と一体となり、土地の文化や豊かさを意識させる住環境をつくり、遊牧民の住まいの原点を楽しむ計画を一緒に行う。一階は、断熱した開放的土間空間で、手前は薪ストーブとハンモックが吊られ、奥は家族や学生達と狩りや雑穀の収穫を料理し食を楽しみ、仕事やゼミをする場になる。この土間は蓄熱体で、冬も夏も省エネルギーで、快適な室内環境を作っている。樹に登るように階段を上がると、二階は低い視線が延びる穏やかな安らぎの場となる。南に田畑が広がり、北は大きな楠や空を間近に感じられる。公私の領域を明確しない住まい手のライフスタイルを大切に、多様な生活を大らかに包含するような立体的住まい空間をつくる。ここでしかない場所で暮らし、この大地が我が家であるという感覚を育む住まいを目指す。

(新居照和・ヴァサンティ)

遊牧民の家

所在地	徳島県徳島市
施工	アズマ建設
建築面積	77.52㎡
延床面積	91.96㎡
構造規模	W造、地上2階
竣工	2015年9月
撮影	北田英治

大正ロマンの家

岸 一 アトリエジグソー



これは大正時代に建てられた古民家を、新婚夫婦のために再生した住宅である。
1階は閉鎖的な壁を取り払い、居室を大きく2つに分けた。プライベート空間となるLDKは明るく開放感があり現代的な仕上げとし、もう一方は西洋館風のインテリアを生かしたフォーマルリビングとした。
2階は比較的保存状態が良かったため寝室は大壁の現代空間とし、他は現状を生かした真壁の本格的和造りで対比させている。優しい光が差し込む障子や、意匠的で趣のある欄間にダークカラーのインテリアが調和しており、大正ロマンの雰囲気を演出している。このような古き良き建築は後世に残し伝えることが大切であり、この様に現代的にアレンジを加えることで、暮らし方の新しい提案となっている。

(岸 一)

三春の家

所在地	福島県田村郡三春町
施工	株式会社星工務店
延床面積	121.03㎡
構造規模	木造軸組工法、地上2階
竣工	2017年7月
撮影	渡辺 卓

職住一体で自然を楽しむ保養所のリノベーション

貴志泰正 貴志環境企画室



敷地は名勝「千畳敷」に近く、太平洋に沈む夕日を眺められる抜群のロケーションである。壮大な景観を目前にして真新しい建材による装飾は無力であるように思われたため、内装を取り払い、長年自然と対峙してきた力強いコンクリートの躯体を壁や天井の仕上げとして見せることにした。また、身体との距離が近い床や建具、棚板には地元紀州の自然のなかで育った杉や桧といったあたたかみを感じられる素材を選択した。

1階は構造上必要のない壁を解体し、LDKと事務所がゆるやかにつながる一室空間を実現した。

2階は和室と洋室の客室とし、建具に設けた窓も対をなす表現としている。

以前の住まいと事務所から持ち込まれたインテリアの小物が、いささか粗く仕上がった建築と住まい手の距離を和やかに近づけてくれている。

(貴志泰正)

白浜の住居・事務所・客室

所在地	和歌山県西牟婁郡白浜町
施工	西峰工務店
建築面積	126.11㎡
延床面積	167.80㎡
構造規模	RC造、地上2階
竣工	2016年6月リノベーション (1973年竣工)
撮影	母倉知樹

ありのままを引き継ぐ...

太田栄治 高松建設一級建築士事務所



敷地周辺は住・工一体となった雑多な街並みであり、生産施設跡の500坪の空き地を使って「老人ホーム」という、かつてここで働かれていたかも知れない人びとの住まいの計画である。

敷地はコンクリートブロックの塀に囲まれており、傷や汚れが往年の人びとの流した汗を感じさせてくれる。また隣地には低層の公営住宅がありこの塀は敷地内の中庭通路の背景として機能しているため、そのままの環境を引き継ぐことにした。建物の建設に使った型枠材の杉板を高圧洗浄し既存ブロックに貼り、また仮設材の単管を並べた塀を交互に配置することで、ありのままの塀に工事で使用したありのままの材料でつくることがこの場所の造り方にはいいように思った。

将来はこのブロック塀の一部を解体し、公営住宅の中庭とつなげ多世代が集まる場所を提供することで地域社会に溶け込んだホームになるよう願っている。

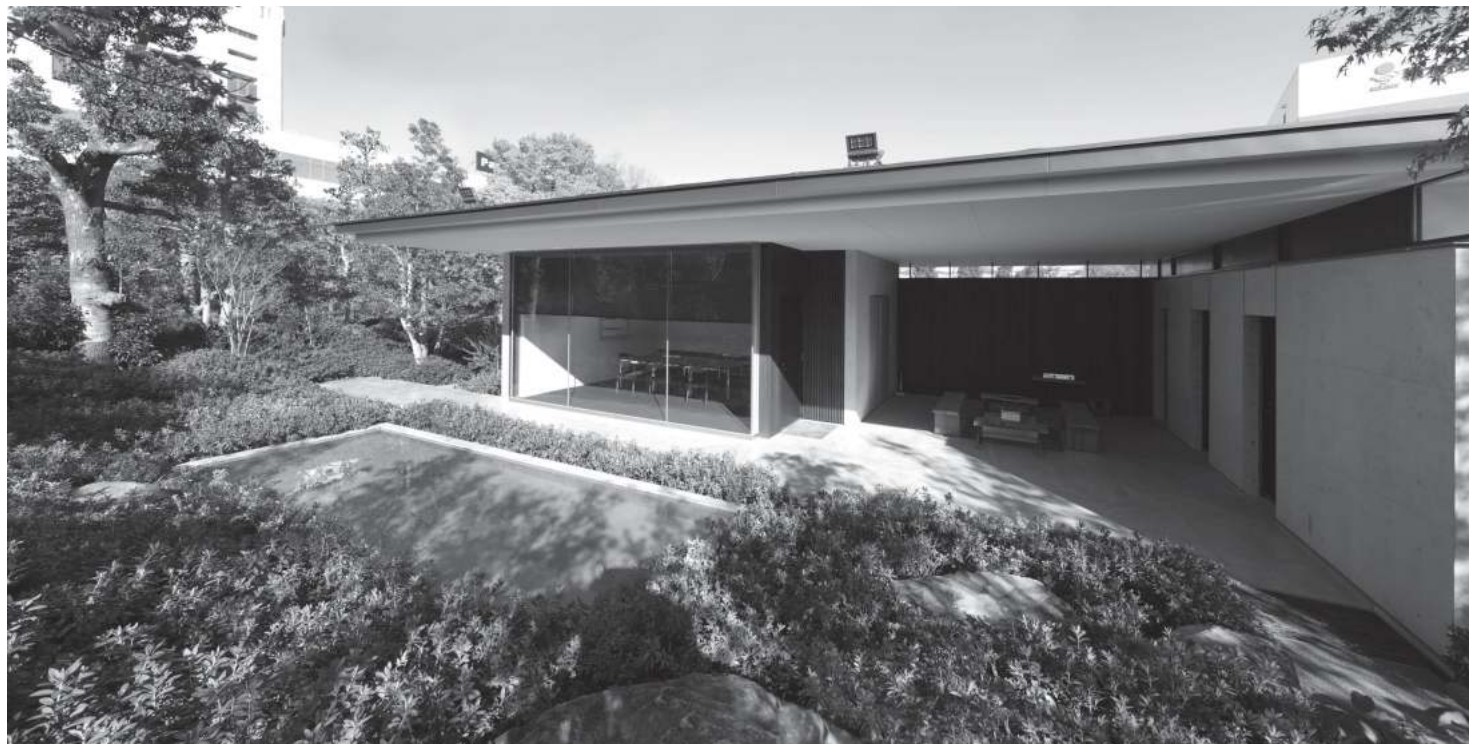
(太田栄治)

老人ホーム

所在地	大阪市淀川区
施工	高松建設 大阪本店
建築面積	970.60㎡
延床面積	2284.32㎡
構造規模	RC造、地上3階
撮影	母倉知樹 他

緑・水・空と一体化する建築

平井浩之 大成建設株式会社関西支店一級建築士事務所



伊丹空港からほど近い本社および本社工場敷地を再整備し、庭園風の本社を創るコンセプトのもと、工場を半分解体し、庭の整備、そこに8名の来客専用待合室を設ける計画である。

近隣から一線を画し、視線を気にしない別世界を創るというのがクライアントの要望であった。

日射制御及び近隣建物の存在を消すために、2.7m跳ね出した屋根としている。草木の中に配置されたアップパー照明により、葉のゆらぎが天井面に映し出されるなど、自然の中の執務空間を創出した。

ミーティングルームと水廻りのスペースの間に設けた「無用の用」の多目的スペースは、クライアントの思いにより使い方が可変にできるようなフレキシブルな空間となっている。

(平井浩之)

パスカル本社ゲストハウス

所在地	大阪府伊丹市
施工	大成建設株式会社関西支店
建築面積	127.14㎡
延床面積	103.50㎡
構造規模	RC造、地上1階
竣工	2012年11月
撮影	エスエス大阪

松ヶ崎の町家

平尾和洋 造形工房 平尾アトリエ 一級建築士事務所



大文字の送り火を望むことのできる洛北の地に建つ住宅兼アトリエである。これからの都市景観形成を考える機会が近年増えたこと、敷地が典型的な短冊型であったことを契機に、現代タウンハウスのものを自己流かつ現代的に解釈してみた。主なテーマを整理すると以下の5点となる。

- 1) 5.5m×17mの鰻の寝床に景観形成モデルとなるようなボリューム形成・植樹規模を試行すること
- 2) 延床面積に算定されないCH=1.4mのメザニン階を収納&機械設備フロアとして活用し、縦に広く=狭小さを緩和すること
- 3) 拙著「日本の建築意匠」で再考した伝統表現の一部（あられ土間・様々な障子等）を現代の耐久素材でリメイクすること
- 4) 町家の尺間スケールを鉄骨造で表現すること
- 5) 庭のみならず、地中ピットの冷却空気を室内環境に活かすこと (平尾和洋)

松ヶ崎の町家

所在地	京都市左京区
施工	山田工務店
建築面積	59.32㎡
延床面積	99.22㎡
構造規模	S造、地上2階
竣工	2017年7月
撮影	平尾和洋

リノベーションを通じて環境に寄り添う

吉永規夫 Office for Environment Architecture



長崎県佐世保市の古くから広がる急峻な住宅地の端にある築53年の住宅のリノベーション。
住人は女性ひとりで、祖父母が遺した空き家になっていたこの住宅を受け継ぎ5年前から住んでいた。
改修前は断熱気密性の悪さによる、冬の寒さ、夏の暑さ、虫の侵入に悩みながら生活していたため、周辺の風景、環境を楽しむというよりは、閉じて耐える日々を過ごしていた。
改修で中廊下で分かれていたキッチンとリビングを一室にして、断熱材を充填した構造フレームを挿入した。
急峻な地勢の住宅に挿入されたトンネルは佐世保特有の緑豊かな光景を内部に取り込むとともに、海から吹く風の道の役割も果たしている。
斜面下の周囲からは内部のプライバシーは守られ、LDKの真ん中に置かれたキッチンは洞窟の中で暮らすような安心感のある居場所をつくっている。
古い小屋組と新しく挿入された部分の新古が混じり合い、佐世保らしい眺望に優れたこの敷地ならではの環境との対等な関わり方を提案した。

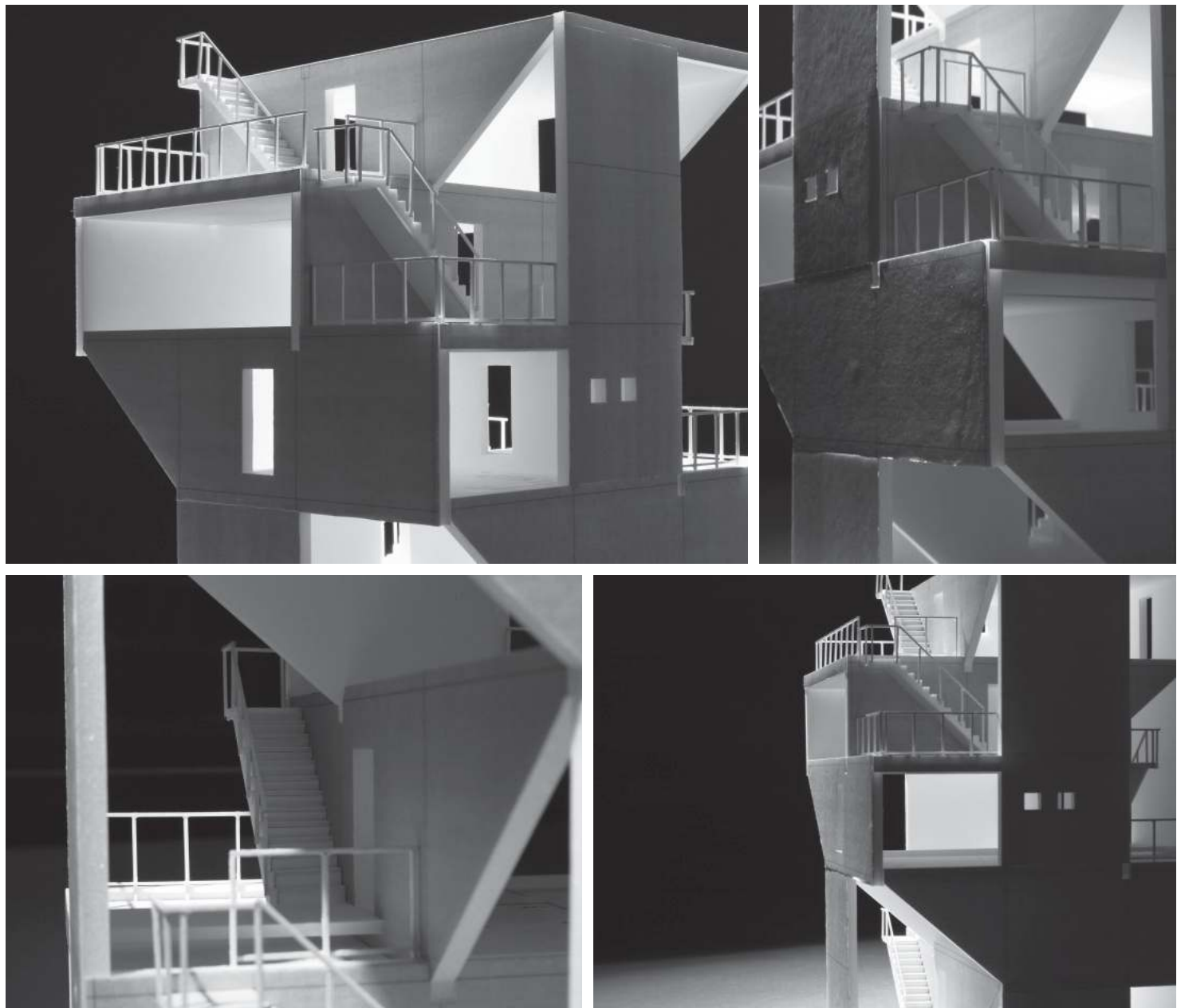
(吉永規夫)

佐世保のリノベーション (ヨシナガサキ)

所在地	長崎県佐世保市
施工	池田良工務店
敷地面積	371.66㎡
建築面積	104.17㎡
延床面積	86.10㎡
構造規模	W造、地上1階 (リノベーション)
竣工	2017年7月
撮影	針金洋介

半島 新築 共同住宅

塚口洋之 建築半島 塚口洋之設計事務所



祖母が亡くなり、母親が相続した土地にマンションの設計を依頼された。

手元にはサロンを設計した際に使った杉の端材があった。それを組み上げていくと空間ができる気がした。元はギリシャ建築のような塊とその周りで過ごす人のイメージであった。また一方で、大きくはない平屋建ての一軒家を解体して新築するにあたり、贅沢な空間について考えた。僕が8歳頃まで両親と過ごしたのも平屋であり、道路境界の簡素な塀や、隣家と接する庭があった。囲い込んだ中でそこに向かって開くという所有する贅沢ではない形がそこにあった。「積層平屋建てマンション」として、バルコニーと住戸の関係、共用部の連なりを考えた。

まだ着工前ではありますが、最後に謝意として、萬田隆構造設計事務所による計画当初からのご尽力があって、建築として成立させることができました。

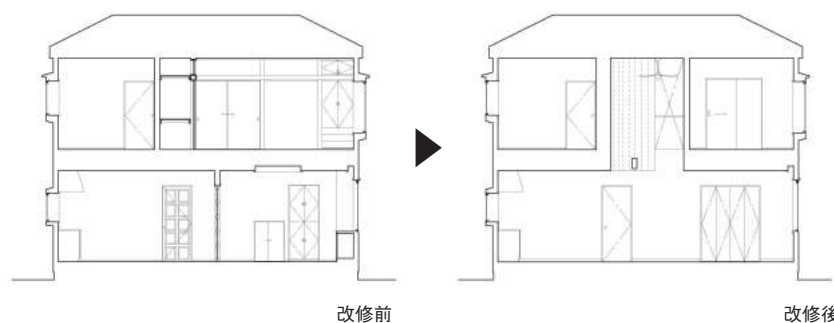
(塚口洋之)

GARDEN FLATS

所 在 地	兵庫県西宮市
施 工	クサカ建設
建 築 面 積	108.16㎡
延 床 面 積	311.49㎡
構 造 規 模	RC造、地上5階
竣 工	2018年6月
撮 影	塚口洋之

Whale House

村重保則現代建築設計事務所株式会社 東京事務所



昭和後期に建設された木造住宅の改修。限られた予算の中で、過剰と思われる間仕切りを撤去し、寝食のスタイルを始め、夫婦＋子供２人という現在の家族に見合った住まい方を提案した。施主が望んだ既存の物入れは残したまま、室内全体の通風と採光を期待して２階の床を撤去し、いびつな形状の吹抜けが生まれた。

そこで吹抜けの大きな壁面を年間の太陽の運行に合わせた曲面とすることで、日中には曇りの日でも照明が不要なほどの光の壁、夜間には柔らかな光の壁となり、居心地のよい場所を生み出している。建て込んだ住宅地において、家族の居場所と密接に関わりをもつ採光装置が、この家の性格を特徴づけている。

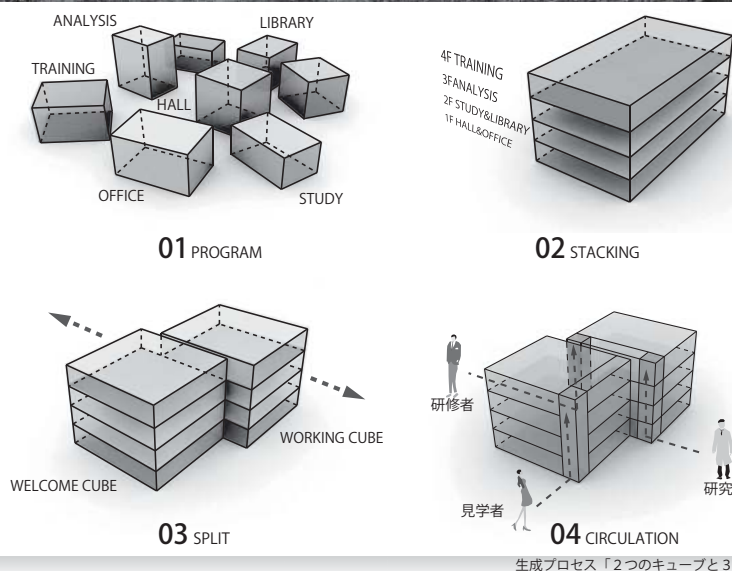
(村重盛紀)

Whale House

所在地	東京都府中市	構造規模	W造、地上２階
施工	(有)ジェイビー	竣工	2016年10月
建築面積	50.51㎡	撮影	©idearch
延床面積	101.02㎡		

TWIN-CUBE 研究者と来訪者の交流を最大化する建築

平井昌志・古市 理・鬼頭朋宏 大成建設株式会社関西支店一級建築士事務所



本計画はTWIN-CUBEというコンセプトで、研究者が利用する「ワーキングキューブ」と来訪者を迎える「ウェルカムキューブ」から構成されています。これらの2つのキューブが交わることで研究者と来訪者が出会い、発見を共有し、両者のイノベティブな交流を活性化・最大化することを目指した建築です。コンセプトであるTWIN-CUBEを考慮して外観、内観デザインとともにモノリシックなデザインとなるようにヴォリューム構成からディテールまで一貫しています。異なる要素と形状や素材によって分節することでエッジの効いたオブジェクト感あるデザインとしました。(鬼頭朋宏)

アース環境サービス株式会社
彩都総合研究所T-CUBE

所在地	大阪府茨木市		
施工	大成建設株式会社関西支店		
建築面積	1777.09㎡	竣工	2015年10月
延床面積	6679.48㎡	撮影	宮本真治・鬼頭朋宏
構造規模	S造、地上4階		

一つ屋根の下に集う開かれた研究所

関山泰忠 大成建設一級建築士事務所



計画は成長戦略事業である機能品の研究開発機能をさらに充実するため、製造拠点が、顧客に近い大阪地区に研究開発拠点を設置したいという要望からスタートしている。そのため、人々を迎え入れる設えと研究機能との融合がテーマになった。

研究開発活動は、危険を伴う実験もあり、視覚的にスタッフの動きを常に把握することが安全上最も重要視された。シャフトスペースを分散配置し、残った壁面は最大限透明にすることで、視認性と安全性を確保した。

実験の内容や共働メンバーの変化があるため、フリーアドレスが採用され、様々に設えられたワークプレイスを選びながら働くことができる。そこでスタッフ同士のコミュニケーションが誘発・活性化され、研究開発の効率をより良いものにしていくことが意図されている。

(関山泰忠)

宇部興産 大阪研究開発センター

所在地	大阪府堺市
施工	大成建設株式会社関西支店
建築面積	1,607.52㎡
延床面積	3,768.73㎡
構造規模	S造、地上3階
竣工	2016年7月
撮影	エスエス大阪／左海一郎

使い手の柔軟な発想を惹き出し オフィスに多様な価値を生み出す「無用の用」の空間

平井浩之・本家公巳子 大成建設株式会社関西支店一級建築士事務所



企画開発を行う会社のオフィス、厚生施設、宿泊施設などで構成される施設の計画である。複合的な要素をひとつの建物でつなぐため、半屋外の「無用の用」の空間をつくり、それが外装に表出したデザインとしている。ランダムにくり貫いた7つの穴が、外部と内部を曖昧につなぎ、建物に深みや個性を与え、曖昧な空間だからこそ自由な発想を喚起し、多様な使い方が生まれることを意図した。内部では吹抜け空間を構成し、見る・見られるの視線が交差する。お互いの存在を感じることで、ひとつ屋根の下で家族のようにつながる建物を目指した。高速道路に面する敷地において、この空間が、音や視線に対する緩衝帯となっている。落ち着いたオフィス空間を成立させるとともに、コミュニケーションを誘発する仕掛けにもなっている。

(本家公巳子)

パイオニア本社ナレッジセンター

所在地	大阪府東大阪市
施工	大成建設株式会社関西支店
建築面積	198.06㎡
延床面積	1169.68㎡
構造規模	S造、地上7階
竣工	2016年3月
撮影	株式会社エスエス

医療環境の変遷に対応する新世代の内科病院

中尾勝悦 中尾総合建築設計事務所



この建物は1970年頃に量販店として建てられ、1983年4月に用途変更された病院である。用途変更時には耐震改修も行われ、約50年、使い続けられている。

この度のリニューアル工事は、2012年に始まり、今も続いている。病院は此の地で34年間営まれている。この間の医療環境の変遷は目覚ましく、患者やご家族のニーズに寄り添った新世代の内科病院のモデルを目指して、計画が進行している。

最初の改修は、建物の顔であるエントランスホールから行われた。与えられたコンセプトは、『ホテルのロビーの様な、エントランス』であった。建築空間の大きな変化は、訪れた人に驚きを与えるだけでなく、職員の意識の向上につながった。以降、単なるリニューアルにとどまらず、広告塔のLED化、浴室の機械化、調理室のオール電化やクックチル方式への移行などを受け、水廻りを含む施設内リノベーションも行っている。外観は、1980年代の建築モチーフを取り入れ、大きく様相を変えた。病院として運営しながらの工事は、患者さんにも負担を掛けるが、スタッフが丸となって協力し、スムーズに進行している。

(中尾勝悦)

医療法人正幸会 正幸会病院

所在地	大阪府門真市
施工	エントランスホール リニューアル工事/寺崎建設(株) その他/(株)ディー・インプレス
建築面積	402.950㎡
延床面積	1,189.428㎡
構造規模	RC造、地上4階
竣工	エントランスホール リニューアル工事/2012年12月 外来区域&2階個室 リニューアル工事/2015年3月 外壁リノベーション工事/2016年1月 内視鏡センターリノベーション工事/2016年9月
撮影	エントランスホール /フォトBC 西野久夫 その他/アーキテクトフォト社 高田 真・深澤恭子

京都市京町家の保全 及び継承に関する条例 の制定

関岡孝繕

京都市都市計画局まち再生・創造推進室
京町家保全活用課長

背景

京町家は、先人から受け継いできた本市固有の景観や文化を象徴するものであり、現在も、まちの暮らしの基盤として、また、様々な社会的・創造的活動の拠点として、京都の魅力あるまちづくりの貴重な資源である。

京都市では、平成12年に「京町家再生プラン」を策定し、以降、多様な取り組みを、市民、事業者団体、市民活動団体等との連携のもとに展開し、一定の成果を挙げてきた。

現在では、京都文化への関心や環境意識の高まりなどを背景に、京町家の有する多様な価値が見直されつつあるが、それでもなお、京町家の滅失が進行し続けている（図1）。

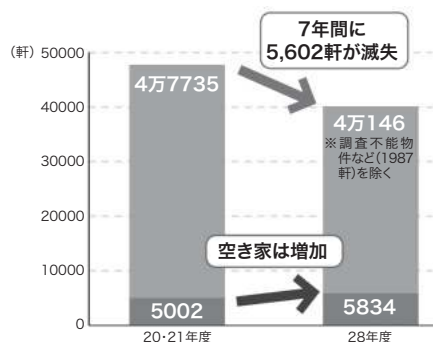


図1 京都市における京町家の数

これは、京都のアイデンティティを脅かす、重大な危機であり、こうした状況を踏まえ、京町家の滅失に歯止めをかけ、これを保全し、将来の世代に継承していくため、平成28年度に有識者等により構成する「京町家保全・活用委員会」に諮問し、平成29年5月に答申を受け、同年11月16日に「京都市京町家の保全及び継承に関する条例」を制定した。

条例の概要

本条例は、京町家を保全し、将来の世代に継承するため、その基本理念や多様な主体の責務・役割を定め、具体的な施策として、「京町家の取壊しの危機を事前に把握し、保全・継

承に繋げる仕組み」を位置づけている。

■基本理念

京町家の保全及び継承は、京町家が本市固有の趣のある町並み及び個性豊かで洗練された生活文化を象徴するものであり、魅力あるまちづくりに欠くことのできない市民の貴重な財産であることに鑑み、所有者その他多様な主体の連携及び協力の下に、推進されなければならないこととしている。

■京町家の定義

建築基準法の施行以前に建築された木造建築物で、伝統的な構造及び都市生活の中から生み出された形態又は意匠を有するもの。

■責務等

本市、京町家の所有者その他多様な主体の責務・役割、相互の協力について定めた。特に、事業者には、保全・継承への協力、事業活動にあたって、京町家の活用・流通促進、町並み景観の保全に配慮するよう求めている。

■事業者による保全、継承のための取り組み

京町家が取壊しに至る過程において、事業者による働きかけを徹底することで、取壊しを未然に回避するため、不動産事業者には、所有者及び京町家の購入者、賃借人に対し、保全・継承に関する情報の提供及び助言を行うこと、解体工事業者には、京町家を解体しようとする者に対し、保全・継承に関する情報を提供するよう求めている。

■施策の方向性

- ・意識の醸成（広報、啓発、顕彰）
- ・維持管理、修繕及び改修の支援
- ・活用促進のための環境整備、継承の施策
- ・改修等に関する技術の継承、後継者の育成
- ・各主体の連携・協力の推進（交流促進等）

■京町家保全重点取組地区及び重要京町家の指定

趣のある町並み又は個性豊かで洗練された生活文化の保全及び継承を図るうえで特に重要な京町家や区域を市が指定する。

■京町家の解体に係る届出

京町家について取壊しも含めた処分を検討しようとする際に、早い段階で市に届け出てもらうことで、その保全・活用方法について幅広い選択肢を示し、当該京町家の保全・継承に繋げていくことを目的とした制度である（図2）。

全ての京町家について届出が必要となるが、重要京町家及び京町家保全重点取組地区内の京町家については、解体に着手する1年前までに届出が必要としている。

なお、解体工事業者には、届出の確認、契約締結時の市への通知を義務付けている。

■結びに

現在、届出制度の施行を見据え、不動産・建築関係団体等と連携し、活用方法の提案や活用希望者とのマッチングに関する仕組みの構築、体制の整備に向け、準備を進めている。

本条例の制定を契機に、京町家の保全・継承に向けた機運が高まり、建築・不動産関係の事業者・専門家を含め多様な主体による取り組みが展開され、京町家の滅失に歯止めがかかり、京都の伝統的な町並みや暮らしの文化が次世代に継承されていくことを期待している。

（せきおか たかよし）

●関岡孝繕

1971年生まれ。1996年名古屋大学大学院卒業。1996年京都市入庁

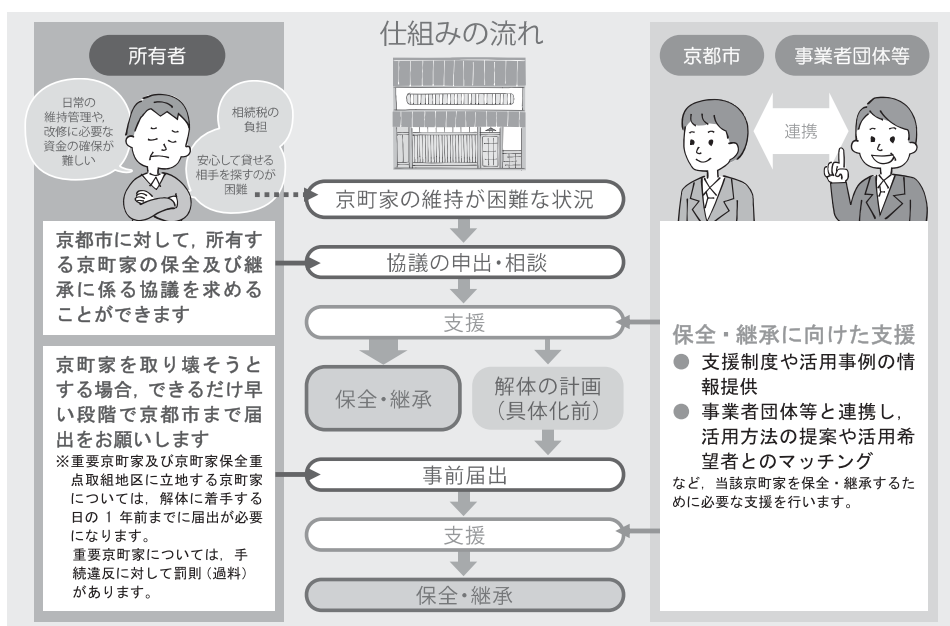


図2 京町家の取壊しの危機を事前に把握し、保全・継承に繋げる仕組み（平成30年5月施行）

コイズミ緑橋ビル DALIを軸にした省エネオフィスビル

松倉想馬

株式会社竹中工務店 大阪本店 設計部
設備部門 主任

建築計画

コイズミ緑橋ビル（呼称：コイズミ照明R&Dセンター）は小泉産業株式会社により建設された、コイズミ照明株式会社の新築オフィスビルである。敷地は大阪市街地の東側に位置しており、住宅地に面した建物南面を階段状の緑化バルコニーとすることで、外皮熱負荷の低減と自然採光確保の両立を図っている。建物中央部には吹抜けを配し、トップライトによる自然採光と南面からの自然換気を促進する。建物北面はダブルスキンにより断熱性能と遮音性能を向上するとともに、全面をガラスファサードとすることで、自社開発照明をアピールする場とした。



写真1 建物外観（北面・南面）



図1 断面バース

設備計画

知的生産性の向上にも配慮した照明・空調計画や高度な照明制御、空調・ブラインド等の設備とも連携したDALI連携BA（ビル・オートメーション）システムを軸に、中小規模建築物に最適な設備システムの実現を目指した。

■照明計画

全館LED照明とし、主にDALI制御を採

用した。DALI（Digital Addressable Lighting Interface）とは、欧州を中心に広がりつつある照明制御の国際規格である。照明の調光制御に特化しており、双方向通信、オープンプロトコル、シンプル配線といった特長がある。照明器具は、執務室毎の部署、空間に合わせ形状の異なるグレアレスなベース照明器具を新規開発した。また色温度3,000Kから5,000Kの範囲で、日中の白く快活な光から夕方には暖かく落ち着いた光へと変化するサーカディアンリズムに合わせた調光調色制御をDALIにより実施した。壁面に設けたタッチパネルスイッチにより、ゾーン毎の一括ON/OFFや色温度、照度変更も可能とした。



写真2 新規開発ベース照明器具

■DALIセンサ連携制御システム

執務室においては、DALIで用いているマルチセンサ（人感+照度センサ）を利用し、照明だけでなく、空調換気の制御も行うシステムを開発し導入した。これにより、不在時は照明の減光だけでなく、ゾーン毎の空調設定温度の緩和や換気停止を行う省エネ制御システムを可能とした。このようなシステムを構築するために、従来は中央監視盤を設置するのが主流であったが、本計画では、DALIのBAシステムとの親和性を活かし、市販の空調集中コントローラと接続することで、より簡易に実現した。さらに、空調集中コントローラにて空調換気機器の監視制御だけでなく、照明調光調色制御、ブラインド制御やキュービクル、エレベーター等各種設備の警報監視も可能とした。

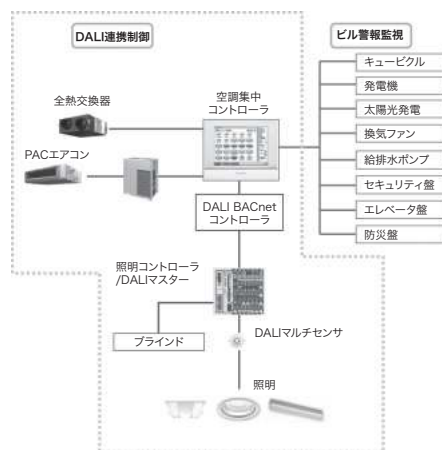


図2 DALIセンサ連携制御システム構成図

■タスクアンビエント吹出口

4階北側執務室を対象に、パーソナル吹出ユニットを天井面に設置し、個人の好みに合

わせた空調気流を生み出すパーソナル空調を導入した。自動車のキーリモコンを応用したワイヤレスリモコンを新規開発することで、パーソナル吹出ユニットを1対1で発停および風量切替（弱・中・強）の個別制御を可能とした。また、空間デザインにも配慮し、全体空調用の吹出口をシステム天井用のパンチングパネルと兼用し、中央部にパーソナル吹出ユニットを設置することで、意匠と調和した建材一体のタスクアンビエント吹出口を開発した。

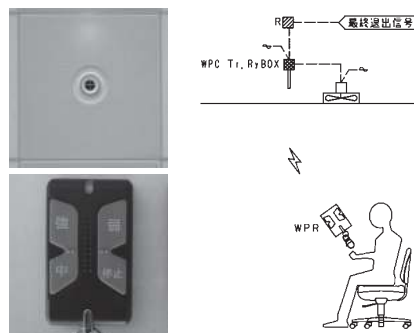


図3 パーソナル空調概念図

■環境性能

上述の省エネ、省CO₂に関する種々の取り組みが評価され、平成27年度 第2回サステナブル建築物等先導事業（省CO₂先導型）の中小規模建築部門に採択された。本計画における省CO₂効果は計画段階で削減量208.2t/年、CO₂排出削減率43.2%と試算しており、CASBEEに関しては、BEE値3.0のSランクを達成した。今後はBEMSにより竣工後の運用によるエネルギー消費量を把握、分析し、入居前の執務者アンケートにより、知的生産性に関する効果検証を行う予定である。

（建物概要）

建築地：大阪市東区東中本2丁目3番5号

工期：2016年3月～2017年3月

主用途：事務所

構造・階数：S造 F6 P1

敷地面積：1466㎡

延床面積：5226㎡

建築面積：1129㎡

設計・施工：株式会社竹中工務店

おわりに

建築主である小泉産業、コイズミ照明の皆様をはじめ、多大なるご協力を頂きました全ての関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

（まつくら そうま）

●松倉想馬

1981年東京都生まれ。大阪府立大学大学院修了。2007年株式会社竹中工務店入社。

Member's Forum

会員投稿の頁



U-35委員会企画 「設計者のしごと」 一組織で働くU-35世代と建築— 活動報告

アートアンドアーキテクトフェスタ主催「U-35 Under35 Architects exhibition 2017」の関連イベントとして、U-35のこれまでの活動を紹介する展示企画と、「設計者のしごと」と題したトーク企画を行いました。

U-35委員会ホームページ

HPを開設しました。

新着情報や過去の活動報告もご覧になれますので、ぜひ一度お立ち寄りください。

<http://www.aaj.or.jp/u35>

U-35委員会Facebookページ

活動内容やメンバーの雑感などざっくばらんに情報をアップしています。

<https://www.facebook.com/U35.aaj>



2016年に引き続き2回目のAAFとの共同企画

2017年10月29日（日）、アートアンドアーキテクトフェスタ（AAF）が主催する「U-35 Under35 Architects exhibition 2017」の関連イベントとして、2016年に続き、日本建築協会U-35委員会による展示企画とトーク企画を開催した。

展示企画ではこれまでに私たちが行ってきたtalk baton（インプットの活動）とaction（アウトプットの活動）を通して、そこで出会ったさまざまな建築とは異なるフィールドで活躍する同世代の人々とのディスカッションから得られた知見をパネル形式で展示した。また、昨年行われた日本建築協会100周年記念式典で開催した海外で活躍するU-35世代の方々を招いたシンポジウムの内容や、事前にU-35委員会で訪れた海外視察なども紹介し、来場された方々もその量に圧倒されながらも、とても熱心に見て頂くことができた。

トーク企画では、「設計者のしごと」一組織で働くU-35世代と建築—と題して、私たちU-35委員会のメンバーのうち、9名が自身の関わったプロジェクトについてプレゼンテーションを行った。

事前に委員会内でプレゼンテーションの内容について議論と練習を繰り返して行い、作品紹介に終わるのではなく、自分たちの仕事のプロセスや、設計に対する取り組み姿勢、建築に対する熱い思いを伝えることを重視し、私たち設計者の日頃の姿を具体的に知ってもらうことを強く意識した。

それぞれの建築に対するスタンスに合わせて『場所と建築』『プログラムと建築』『思いと建築』の3グループに分けてプレゼンテーションを行った。天気はあいにくの大雨（台風）であったが、トーク企画ではブース内に入れないほどの来場者があり、立見も発生するなど、前回以上の熱気の中でプレゼンテーションとディスカッション（質疑応答）を行った。



展示企画の様子

■ グループA『場所と建築』

・関村 光代（昭和設計） 「地域になじむ」
川西市市民体育館

・箕浦 浩樹（大林組）
「ここだけにしかない建築を創る」
Kプロジェクト

・宮武 慎一（安井建築設計事務所）
「“幸せな未来”を視覚化する」
hu+gMUSEUM

質問者（一般）：社会に出た始めのころは実務に追われてじっくり建築を考えている暇がなかったのですが、皆さんはどのように設計を進め、また上司とはどのように話をされているのかをお聞かせください。

関村：私も実務にバタバタと追われてはいましたが、それでも比較的考える余地を上司に与えられた恵まれたプロジェクトだったと感じています。学生の時にやっていたことを活かして、提案し、技術的なことを教わりながら進めることができたと感じています。

質問者（学生）：私は高等学校の建築工学科で勉強しています。これから設計競技に参加したいと思っていますが、過去の受賞作品を見ると斬新な建物ばかりです。今の少子高齢社会の中ではアットホームな空間が一番良いと考えていますが、受賞するためだけの作品を作るべきか、自分の思っていることを貫くべきか迷っています。

宮武：実務では長い期間そのプロジェクトと付き合う必要があります。納得のいかない設計をすると、その後何年も苦しむこととなるため、それだけはしないように心がけています。学生のコンペでも同様に、今の純真なビュアな気持ちを貫いた方が後々のためにもなるのではないかと思います。

■ グループB『プログラムと建築』

・鬼頭 朋宏（大成建設）
「コラボレーションにより最大化する建築」
アース環境サービス株式会社社都総合研究所T-CUBE



冒頭にU-35委員会の設立趣旨や取り組みを説明

・吉田 悠佑 (大林組) 「機能性能を乗り越える」
総合研究開発センター

・辻本 知夏 (安井建築設計事務所)

「個性を引き出すデザイン」

チュチュアンナグループ本社ビル

質問者 (一般) : 辻本さんの作品は「カワイイ」をテーマにしていますが、デザインが決まっていく経緯を詳しく教えて下さい。

辻本 : ガラスブロックの丸を8個並べるデザインはこちらからお客さんに提案しました。丸い窓を用いて外壁面に可愛らしさを表現しつつ、可愛いだけで飽きやすい絵にはならないようにバランスを考え、何パターンも作成して生み出しました。ファサードがめくれるデザインは繊維を扱う企業だったことから、可愛らしさと遊びを表現しました。実際に形にする時は技術的にも難しかったのですが、最終的に出来てよかったと思っています。

■ グループC『思いと建築』

・小林 敬政 (大建設) 「思考を形にする」
K大学スポーツ施設

・平岡 翔太 (大建設) 「privateとpublicを繋ぐ」
某事務所

・森下 大右 (昭和設計) 「建築と僕」
永国寺キャンパス新図書館

質問者 (一般) : 小林さんは入社2年目ということで世代が近く、親近感を持ってお話を聞いていました。プレゼンテーションでは、やりたいことのいくつかがクライアントとの協議の中で消されてしまい、残ったものをやりましたというふうに聞こえてしまったのでもう少し詳しく教えてください。

小林 : 建築にはいくつかコンセプトがあり、最初にイメージしたことを踏まえてクライアントとのやり取りの中でそのコンセプトは取捨選択、精査されていくものだと思います。今回は、利用者が入ってみたいと思える北面のファサードが一番重要な部分だったため、このコンセプトだけは守り、あとは

利用者がいかに使いやすい体育館にできるかを考え、コンセプトを煮詰めていきました。

質問者 (学生) : 森下さんのお話の中に「説明できる建築」という言葉がありましたが、例えば上司や専門家の方に説明する際と専門家ではない方たちに説明する際の違いがあれば教えてください。

森下 : 建築の専門家かそうでないかで計画の説明の仕方は大きく異なります。専門家の方の場合は、ある程度内容を省略しても問題ありませんが、専門家ではない方の場合3Dを利用したり、分かりやすく丁寧な資料を準備します。また、相手が何に興味があるのか、例えばデザインなのかコストなのかを察知し、その人の興味のある分野・切り口で説明することが一番理解が早くなると考えます。

■ 全体ディスカッション

質問者 (一般) : 2020年のオリンピック以降、恐らく日本の経済は衰退していくと考えています。35歳前後のみんなが5、6年後には40歳前後になり、これからもっと仕事をこなしていこうという時に自分が何をしていけるか、どういう部分を引き伸ばしていこうと考えているのか、そういうことを考えるきっかけがあれば教えてください。

宮武 : まさにU-35委員会で議論していることです。僕たちは設計者の職能を広げることとはとても大切なことだと考えており、talk batonについて最初に説明させて頂いたとおり、同世代の建築関係ではない専門家の方たちとディスカッションをして視野を広げ、発見を得たりし、できることを増やすことも大切なことのひとつだと考えて活動しています。

質問者 (一般) : 知識知見を広げるとあわせて、ビジネスとしても考えていく必要があると思います。建築設計者の高いヒアリング能力などを活かして地域に対して物事を解決し、対価を得ることを常々考えています。

(文責：宮武慎一、森下大右)

● U-35委員会企画「設計者のしごと」を終えて

2年続けて参加させていただいた、AAF主催のこの企画はU-35委員会にとって、talk batonやactionと異なり、自分たちの「普段の仕事」を外部に対して発表する唯一の場だ。当初は組織で働く若手設計者の声に興味を高めしてくれる人がどのくらいいるのだろうかという不安もあったが、当日は立見が出るほどの多くの来場者、社会人や大学生だけでなく、高校生なども含む様々な世代の方に来ていただくことができた。発表の後、メンバーみんなが感じたことは、U-35委員会の活動が少しずつではあるけれど、着々と社会の中で認知されつつあるということ、同時に今年で6年目を迎えることとなるU-35委員会は次のステップ、社会に対してより強いメッセージを発信するステージに進んでいく必要があるということだ。

次年度以降もこのAAF主催の企画に参加させていただくことがあれば、前回・前々回を超える、社会に対する新たな発信を目指していきたいと考えている。

アンケートコメント欄の「現場の苦労や自身の建物への愛着が感じられてよかった」、「学生コンペに参加する際の心構えがわかった」、「設計者の個性と様々な要望とのせめぎ合いが知れた」、「知識が少なくてもとても聞きやすかった」などの意見からは、単なるプロジェクト紹介にならず、設計者としての普段からの思いや振る舞いのようなものを素直に伝えたいというプレゼンテーションで意図した狙いがうまく伝わったのではと感じた。

今回初めて司会進行を務めることとなり、昼食が喉を通らないほどプレッシャーを感じた。なんとも小心者であると再認識したわけだが、つたない進行の中、メンバーみんな協力して企画を成功させられたことにとても満足している。

(文責：宮武慎一)



登壇者の思考に沿ってグループごとに発表を行った

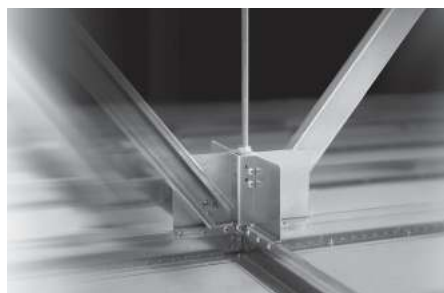


来場者との距離が近く白熱したディスカッションが展開



U-35委員会メンバー

新耐震天井工法 ダイケンハイブリッド天井



大建工業株式会社

<https://www.daiken.jp/>

人々が集う空間の“質”を向上するために欠かせない床材、壁材、天井材、ドア、収納、音響製品などの幅広い建材に、消費者目線で見いだした安全、安心、健康、快適という機能・品質をプラス。さらに建材がその機能・品質を発揮するために必要な工事・施工までを手掛けています。

■本店

〒932-0298
富山県南砺市井波1-1

■本社大阪事務所

〒530-0005
大阪市北区中之島3丁目2番4号
中之島フェスティバルタワー・ウエスト14F

■東京事務所

〒101-8950
東京都千代田区外神田3丁目12番8号
(住友不動産秋葉原ビル)

耐震性と省施工を両立させた 新しい天井工法 ダイケンハイブリッド天井

東日本大震災後の建築基準法改正で、天井の耐震性能が求められる反面、在来工法では施工の手間が増大。DAIKENでは、短工期で耐震化ができる独自の新天井工法を開発。在来天井の良さとシステム天井の良さを融合させました。

■天井の耐震化が求められる時代へ

2011年に発生した東日本大震災で、吊り天井の脱落被害が相次いだことから、国土交通省は、天井の脱落防止に関する新告示を施行。これにより特定天井（※）に対する耐震化が義務づけられるようになりました。

また、文部科学省は、児童生徒が日常的に使用し、地域の避難所としても利用される文教施設について、より安全性を考慮する必要があるとの判断から、建築基準法上は特定天井にならない天井も、特定天井に準じた落下防止対策を行うよう自治体に通知しました。

■長寿命化改修と一緒に天井も耐震化

DAIKENは特定天井に対応した省施工・短工期での耐震化が可能な天井工法「ダイケンハイブリッド天井」を開発し、2015年より提案を始めました。

さらに、法規制の対象ではない吊り天井においても、一定の耐震安全性を確保することを目的に、耐震安全性の異なる3グレードを追加しました。

短期間で施工できるため、特に学校・文教施設の長寿命化改修とあわせて天井の耐震化をおすすめしています。

※特定天井：以下の5条件全てに該当する、脱落によって重大な危害を生ずるおそれがある天井のこと。

- ①高さ6m以上 ②面積200㎡以上
- ③質量2kg/㎡以上 ④吊り天井である
- ⑤人が日常利用する場所に設置されている



	グレード名	耐震性能	コスト
特定天井	特定DH9・特定DH12	↑ 高	↓ 低
設計者様の判断により3つのグレードから選択	耐震DH18		
	耐震対策DH18B		
	耐震対策DH18N		

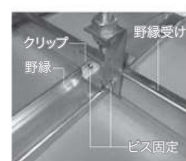
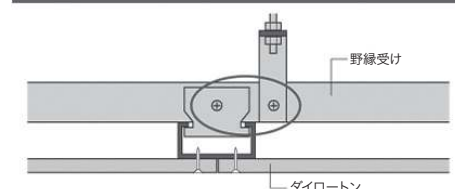
ダイケンハイブリッド天井 ラインナップ

■在来天井とシステム天井のよさを

ハイブリッド

吊り天井には、在来天井とシステム天井があります。在来天井は仕上げ材を自由に選ぶことができるため様々な用途の建築物に使用できます。しかし、耐震化するには施工に手間がかかります。

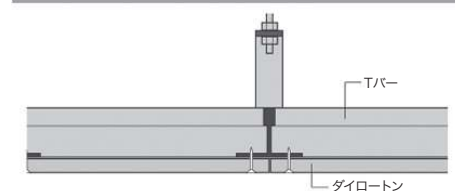
在来天井の耐震化



- クリップと野縁受けの補強金具での緊結が必要。
- 天井単位重量に応じた高剛性の斜め部材の設置が必要。

施工手間は従来の3～4倍に

ダイケンハイブリッド天井



- 専用Tバー材は、特殊ホゾ加工によりビス留めが不要

在来天井の耐震化の約20～30%程度
施工手間を軽減。

※曲面などの一部特定天井には対応できません。

一方、システム天井は一定のモジュールで構成され、格子組みによる高い剛性やワンタッチ接合で省施工、短工期などのメリットがあり、一般的に大面積のオフィスで普及しています。

ダイケンハイブリッド天井は両者のいいところ取りをした結果、①優れた耐震性能、②施工の省力化、③安定した施工品質、④経済設計が可能などを実現しました。

【特長①】優れた耐震性能

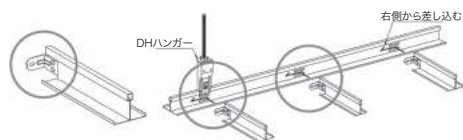
国土交通省基準試験方法ユニット試験（静的加力実験）にて、水平許容耐力：最大4,000Nの高い耐震性を確認しました。



耐震試験（社内試験）状況

【特長②】省施工で短工期を実現

メインバーは特殊ホゾ加工によりワンタッチで接合でき、ビス留めが不要なので、在来天井を耐震化する場合と比較すると、施工の手間を軽減できます。



【特長③】安定した施工品質

パーツ数が少ないので施工の品質のチェックが容易です。

【特長④】経済設計が可能

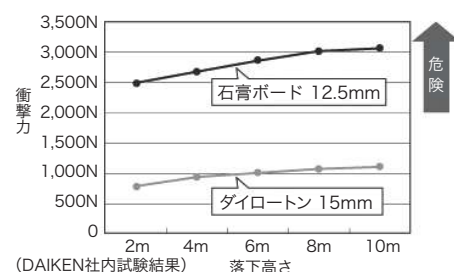
ダイケンハイブリッド天井は材工共参考価格が7,000円/㎡（天井吊り長さ：1500mm以内、水平震度Kh1.0、天井面積：新築の200㎡（1部屋）の平天井、その他条件による）で、品質とバランスを兼ね備えた経済設計を実現します。

■軽量性と吸音性能を兼ね備えた

ダイロートン

ダイケンハイブリッド天井は仕上げ材に軽量天井材ダイロートンを採用。万が一落下しても人命への危険性が低いことが実験でも証明されています。

ダミーヘッド試験結果



（参考）ダミーヘッド試験

所定の高さから材料を落下させ衝撃力を確認。衝撃力が2,000Nを超えない場合は、人命に危害を加える可能性は少ないとされています。

※日本建築学会生産研究VOL.64 NO.6「天井材の安全性評価に関する基礎的研究：石膏ボード落下実験」2012年11月

また、ダイロートンは表面に数多くの吸音穴を持つ多孔質な天井材。音の中でも特に耳障りな中・高音域を抑える優れた吸音性を持っています。

吸音の仕組み



オフィスでは静かで快適な作業環境に、学校などの教育施設では音の響きを抑え、集中しやすい環境に、など様々な場所で空間の音の響きを最適な状態にコントロールし、騒音に対するストレスを低減します。

■採用事例

全国の様々な施設でダイケンハイブリッド天井と軽量天井材ダイロートンを採用頂いております。



日ノ本学園高等学校



中央大学多摩キャンパス



国立市中学校

ダイケンハイブリッド天井についてのお問い合わせは下記窓口まで

設計事務所様

エンジニアリング事業企画部 東京 TEL (03) 6271-7767

建設会社様

エコ営業部

東京 TEL (03) 6271-7766

大阪 TEL (06) 6205-7272

名古屋 TEL (052) 205-5160

福岡 TEL (092) 253-0123

1

特別展

【重要文化財】 聖衆来迎図大小揃金具のうち鐺 後藤一乗作 個人蔵

刀装具とは刀剣外装（こしらえ）の金具である。江戸時代以降に装飾性が増し、金属とは思えないほどのきらびやかで細密な作品が作られた。大阪生まれの実業家・光村利藻（1877～1955）はそうした刀剣・刀装具の技術に魅せられて3000点以上にのぼる一大コレクションを築き、刀装具の名品を集めた図録『たがねのはな 鑿廻花』を刊行した。



【重要文化財】
聖衆来迎図大小揃金具のうち鐺
後藤一乗作 個人蔵

その後コレクションは明治42年（1909）に光村の手を離れ、一括して初代根津嘉一郎（1860～1940）の蔵するところとなった。現在も根津美術館には約1200点が伝わり、依然として我が国最大級の刀装具コレクションとなっている。今回の展覧会では、根津美術館所蔵の光村コレクションの作品を中心に、光村利藻の足跡と彼が魅せられた美の世界を、刀剣や絵画資料も交えた約200件の作品で紹介する。

期 間 3月18日（日）まで
9：30～17：00（会期中の金曜日は20：00まで）
※入館は閉館の30分前まで

休 館 日 火曜日

会 場 大阪歴史博物館 6 階特別展示室
大阪市中央区大手前4-1-32
TEL.06-6946-5728

観 覧 料 【特別展のみ】
一般1,200円、高大生800円
【常設展との共通券】
一般1,680円、高大生1,120円
* 中学生以下無料
* 障がい者手帳等をお持ちの方とその介助者1名は無料

2

生誕120年 東郷青児展 夢と現の女たち

甘く憂いを秘めた女性像で大衆に絶大な人気を誇った画家、東郷青児（1897～1978）。陶器のようになめらかな絵肌と、モダンな装飾性をまとったいわゆる「青児美人」は、昭和の美のアイコンとして、絵画のみならず装丁やデザインの分野においても一世を風靡した。生誕120年を記念して開催される本展では、「青児美人」の確立に至るプロセスを中心に、代表作はもとより、これまで公開される機会の少なかった希少作や異色作までを網羅して紹介する。

日本最初期の前衛画家としての衝撃的デビュー、西洋美術の古典から最新動向までを吸収したフランス留学期。帰国後は二科会の先鋒を担いつつ活動の舞台を広げ、戦後は強力なリーダーとして同会を牽引。幅広い交友関係を持ち、私生活では恋多き男としても知られた。時代の空気を鋭敏に感知し、大衆に理解され愛される芸術を追求してやまなかった東郷青児の多彩で華々しい画家人生を、本展では約60点の作品に写真や出版物などの資料をあわせて振り返りながら、その比類ない女性像の魅力と秘密にあらためて迫る。



《望郷》1959年
東郷青児記念
損保ジャパン日本興亜美術館

期 間 2月16日（金）～4月15日（日）
火～金：10：00～20：00
月・土・日・祝：10：00～18：00
※入館は閉館の30分前まで

休 館 日 2/19、2/26、3/5、4/2の各月曜日

会 場 あべのハルカス美術館
大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43
あべのハルカス16階
TEL.06-4399-9050

観 覧 料 一般1,300円、高大生900円、小中生500円
* 障がい者手帳等をお持ちの方とその介助者1名は半額

▶ 京都工芸繊維大学大学院建築都市保存再生学 コース 保存再生学特別研究会 近代文化遺産における活用の意味を考える

日 時：2月18日（日）13：30～

会 場：京都工芸繊維大学60周年記念館 2 階大セミナー室
京都市左京区松ヶ崎橋上町1
（京都市営地下鉄松ヶ崎駅下車徒歩10分）

定 員：90名

入 場：無料（申込不要、当日先着順）

講 師：ポール・ミュルス（Paul Meurs／STEENHUISMEURS）
主宰／元オランダ・デルフト工科大学教授）
金野幸雄（一般社団法人ノオト代表理事）
中川理（京都工芸繊維大学教授）

主 催：京都工芸繊維大学大学院建築学専攻
京都工芸繊維大学KYOTO Design Lab

後 援：DOCOMOMO Japan／日本イコモス国内委員会

問合せ：京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab
〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町1
http://www.d-lab.kit.ac.jp
Facebook：KYOTO Design Lab／Twitter：@kyotodesignlab

3

コレクション展2018—冬春
特集展示 はじまりの景色

1月から4月は、新しい年を迎え、学校でも仕事でも年度が改まる時期である。春は私たちの生活と心に、何かがはじまる感じをもたらし。

美術作品のなかにもさまざまな意味で「はじまり」が感じられる作品がある。春や朝、芽生えや誕生をテーマにした作品もそうであるし、線や色、かたちという、造形のはじまりになる要素をとくに取り上げた作品、一人の作り手が初めて作った作品もある。

作り手が初めて作った作品が残っていることはまれであるが、自身の制作の出発地点を探る意識を持って作られた作品はときに見ることができる。何を作ろうとしているかもわからないもどかしさとともに、発見の喜びが感じられる作品は、技術はおよばなくても、作り手自身が深い愛着をもって残したと考えられる。その当時の美術教育の方法によって、模写や、写生など試みの内容は異なるが、それらの作品からたしかに新鮮な感じを受けることができる。

また、制作を続けていくうちに、特別なテーマを得た作り手が、同じテーマを繰り返し描き、展開させていく連作に取り組むことがある。館のコレクションにも、そのはじまり「No.1」がタイトルに冠された作品がいくつかある。連作のはじまりと、その展開を見ていくと、それが、そのひとの仕事を続けていく支えになっていることがわかる。こうした連作を見ると、制作が、ひらめきばかりではなく、いかに有機的に、意識的に継続されて実現されているものと心を打たれる。美術は一握りの天才だけが関われるものではなく、あらゆる人にあらかじめ開かれている場所だと実感するからである。

そして、館の学芸員が、いまの、そして、これからの自身の研究のはじまりになると考えている作品も、あわせて紹介する。



村井 正誠《ロンバルディア》
1929（昭和4）
油彩、キャンバス

期 間 4月15日(日)まで

9:30~17:00

※入場は16:30まで

休 館 日 月曜日（ただし2/12は開館）、2/13

会 場 和歌山県立近代美術館 1階展示室
和歌山市吹上1-4-14

TEL.073-436-8690

観 覧 料 一般340円、大学生230円

*高校生以下、65歳以上の方、障がい者手帳等をお持ちの方、県内に在学中の外国人留学生は無料

4

至上の印象派展
ビュールレ・コレクション

スイスの大実業家エミール・ゲオルク・ビュールレ（1890—1956年）は、生涯を通じ美術品収集に情熱を注いだ傑出したコレクターとして知られている。主に16—18世紀のオランダ派から20世紀の近代絵画に至る作品、中でも印象派・ポスト印象派の作品は傑作中の傑作が揃い、そのコレクションの質の高さゆえ世界中の美術ファンから注目されている。この度、ビュールレ・コレクション



ピエール＝オーギュスト・ルノワール
《イレヌ・カーン・ダンヴェール嬢
（可愛いイレヌ）》
©Foundation E.G. Bührle Collection,
Zurich (Switzerland)
Photo: SIK-ISEA, Zurich (J.-P. Kuhn)

ンの全ての作品がチューリヒ美術館に移管されることになり、コレクションの全体像を紹介する最後の機会として、日本での展覧会が実現することとなった。

本展では、近代美術の精華といえる作品64点を展示し、その約半数は日本初公開である。絵画史上、最も有名な少女像ともいわれるルノワールの《イレヌ・カーン・ダンヴェール嬢（可愛いイレヌ）》、スイス国外に初めて貸し出されることになった4メートルのモネ晩年の睡蓮の大作など、極め付きの名品で構成されるこの幻のコレクションの魅力のすべてを、多くの方々にご堪能いただきたい。

期 間 2月14日(水)～5月7日(月)

10:00~18:00

（毎週金・土曜日、4/28～5/6は20:00まで）

※入場は閉館の30分前まで

休 館 日 火曜日（ただし5/1は開館）

会 場 国立新美術館 企画展示室1E
東京都港区六本木7-22-2

TEL.03-5777-8600（ハローダイヤル）

観 覧 料 一般1,600円、大学生1,200円、高校生800円

*中学生以下無料

*障がい者手帳等をお持ちの方とその介助者1名は無料

本欄掲載の1～4の美術館等の招待券ご希望の方は、電話等で申し込み後、招待券送付用の切手（82円）を日本建築協会事務局までお送りください。

編集委員会

第9回広告企画・編集合同委員会

12月11日(月) 18:00~18:50

日本建築協会会議室

出席者 勝山委員長ほか3名

議 事 (1) 1月号特集

①東畑建築事務所創立85周年特集

②温泉と暮らす

(2) 2月号特集 第24回私の空間作法

(3) 3月号特集 東海支部特集

(4) 4月号特集 特別編集委員会特集

(5) その他

2018年4月特集号第3回特別編集委員会

12月11日(月) 19:00~20:30

日本建築協会会議室

出席者 勝山委員長ほか10名

議 事 (1) 企画の決定

第1回建築計画系分科会

12月15日(金) 19:10~21:30

こんご天満橋本店

出席者 中辻幹事ほか6名

議 事 (1) 2017年特集を振り返って

(2) 今期分科会運営について

(3) 2018年特集について

第8回設備分科会

12月6日(水) 18:00~19:55

日本建築協会会議室

出席者 橋本幹事ほか7名

議 事 (1) 2018年特集の企画

(2) 「設備の頁」の企画

第7回法令分科会

12月13日(水) 15:00~16:40

日本建築協会会議室

出席者 小林幹事ほか6名

議 事 (1) 法令コーナーの企画

(2) 2018年特集の企画

第9回作品作風小委員会

12月21日(木) 19:00~20:00

日本建築協会会議室

出席者 加嶋小委員長ほか5名

議 事 (1) 作品の選定

(2) 作品の掲載状況、予定

(3) gallery掲載報告、予定

(4) その他

次世代委員会

第3回2040委員会

12月18日(月) 19:30~21:00

ヨシナガヤ

出席者 駒井リーダーほか5名

議 事 (1) 企画内容

(2) 今後の委員会活動

第3回U-35小委員会(分科会)

12月4日(月) 19:30~

大成建設

出席者 三谷リーダーほか5名

議 事 (1) 企画

第10回U-35小委員会

12月12日(火) 19:30~

日建設計

出席者 三谷リーダーほか6名

議 事 (1) 活動/予定

(2) 次回予定/その他

第11回U-35小委員会

12月26日(火) 19:30~

梓設計

出席者 三谷リーダーほか6名

議 事 (1) 活動/予定

(2) 次回予定/その他

第4回建築次世代委員会

12月6日(水) 18:30~20:15

安井建築設計事務所会議室

出席者 菅原幸也委員長ほか4名

議 事 (1) 委員会の活動方針、今後の進め方

(2) その他

出版委員会

第8回出版委員会

12月26日(火) 18:00~18:45

日本建築協会会議室

出席者 西委員長ほか4名

議 事 (1) 既刊書籍経過報告

(2) 制作進行中の書籍

(3) 今後の出版テーマ

(4) 既刊書籍を用いた講習会の企画

教育委員会

大阪府住まい・まちづくり普及協議会全体会議

12月15日(金) 10:30~12:00

大阪建築会館会議室

報告・議題

1. 出前講座の実施

1) 名刺について

2) マニュアル作り

2. その他

・次回の日程

懇親会

2017年建築関係団体合同忘年懇親会

12月14日(木) 18:00~20:00

太閤閣別館ガーデンホール

参加者 240名

編集委員会(平成29年度)

■副会長

米井 寛

本多 友常

■編集担当理事

◎勝山 太郎

佐藤 榮一

杉本 浩

竹中 統一

西 博康

松崎 公一

船越 淳久

吉村 英祐

香西喜八郎

■副委員長

○戸川 勝之

■特集小委員会

■計画分科会

★計画系

飯田 匡

鈴木 克彦

△田中 直人

松田奈緒子

三宅 次郎

守井 辰

吉村 英祐

★建築計画系

神戸 嘉也

桑原 悠樹

下坂 浩和

△中辻 浩介

東 拓郎

樋口 展寛

松岡 英緯

三谷 帯介

米山 剛史

渡部 剛

★インテリア・住宅系

赤川貴世友

今井 充彦

岩田 圭司

川合 隆之

河西 孝平

△黒柳 亮

塚口 洋之

ペリー史子

■構造分科会

△伊藤 栄治

岡田 健

岸本 光平

瀧野 敦夫

角田 耕一

穂原 学

前沢 皓生

宮久保秀樹

向井 洋一

■設備分科会

有尾清二郎

木谷 晃之

北野 勝也

佐々木章二

寺井 千佳

夏井 重行

△橋本 直樹

梶井 貴廣

宮崎ひろ志

森山 正和

山本 雅洋

■施工材料分科会

東 琢

木谷 在憲

桜井 和男

△高橋 秀一

藤丸 啓一

山口 紀宏

山崎 順二

吉田 正友

■法令分科会

磯林 雅之

黒川 正樹

河野 学

△小林 智成

武田 知士

■作品作風小委員会

東井 嘉信

居内 章夫

池上 明

稲垣 和江

太田 栄治

▲加嶋 章博

菊池 浩輔

倉渕奈千子

澤田 純一

高木 秀晃

鞆野 淳司

西田 佳代

芳谷 晴彦

平野 尉仁

増田 敬彦

■広告企画小委員会

小川 雄介

金築 雄

小山 昭

野山 将男

藤田 昌宏

▲前田 衛

山辻 直樹

(順不同)

◎委員長

○副委員長

▲小委員会委員長

△幹事

印刷 2018年1月29日

発行 2018年2月1日

発行人 一般社団法人日本建築協会

大阪市中央区大手前1-7-31

電話 06-6946-6981

印刷所 ㈱中島弘文堂印刷所

定価 1230円(税込)

©「建築と社会」誌の記事の無断転載を禁じます

出版図書一覧

当協会会員の方で、当会でのご購入を希望される方には、特価：本体価格の1割引＋税にて販売しております。
詳しくは（一社）日本建築協会事務局（TEL 06-6946-6981、FAX 06-6946-6984、E-mail soumu@aaj.or.jp）まで。

最新刊 平成30年1月発行

原因調査と対策のポイント 図解 雨漏り事件簿

雨漏りの原因調査と対策にプロ集団「雨漏り110番」が、多数の生の事例をもとに実務に役立つポイントを解説。

著者 玉水新吾・唐鎌謙二
A5判 216ページ
定価 本体2,500円＋税

近刊 平成29年7月発行

暮らしから考える設計のポイント 図解 住まいの寸法

玄関、トイレ、洗面室など住まいの13の空間の機能と要素を整理し、生活に支障のない理にかなった寸法を紹介。

著者 堀野和人・黒田史香
A5判 200ページ
定価 本体2,600円＋税

近刊 平成29年3月発行

Q&Aでわかる新築・増改築のポイント 図解 一発で通す！確認申請

確認申請をスムーズに通すために、実務で注意すべき間違えやすいポイントが満載。申請業務に必携の一冊。

著者 野口元・平沢隆志・仲本尚志
B5判 192ページ
定価 本体3,200円＋税

近刊 平成28年7月発行

建築現場のコンクリート技術

コンクリートの基本知識、発注の仕方から、品質管理、調合、打込み、劣化・検査と維持補修まで、「そこが知りたい」「今さらきけない」ポイントを解説。

著者 柿崎正義・玉水新吾
四六判 220ページ
定価 本体2,000円＋税

直感で理解する！ 構造設計の基本

山浦晋弘 著
A5判 216ページ 定価 本体2,400円＋税

設計・監理・施工者のための 建築品質トラブル予防のツボ

仲本尚志・馬渡勝昭 著
A5判 248ページ 定価 本体2,800円＋税

改訂版 イラストでわかる 消防設備の技術

中井多喜雄 著 石田芳子 イラスト
赤澤正治・岩田雅之・西博康 改訂監修
B5判 216ページ 定価 本体3,000円＋税

写真マンガでわかる 住宅メンテナンスのツボ

玉水新吾・都甲栄充 著
A5判 248ページ 定価 本体2,800円＋税

主婦建築家と考える 住まいづくりのウソ？ホント？

井上まるみ 著
四六判 184ページ 定価 本体1,800円＋税

プロが教える 住宅の植栽

藤山宏 著
B5判 176ページ 定価 2,800円＋税

住宅エクステリアの100ポイント 計画・設計・施工・メンテナンス

藤山宏 著
A5判 232ページ 定価 本体2,500円＋税

第二版 環境と共生する建築 25のキーワード

大西正宜 著
A5判 240ページ 定価 本体2,600円＋税

〈プロのノウハウ〉シリーズ

写真マンガでわかる 工務店のクレーム対応術

玉水新吾・青山秀雄 著
四六判 220ページ 定価 本体2,000円＋税

現場直伝！ 躯体工事の100ポイント

中川徹 著
四六判 220ページ 定価 本体2,200円＋税

写真マンガでわかる 建築現場管理100ポイント

玉水新吾 著
四六判 224ページ 定価 本体1,900円＋税

建築主が納得する住まいづくり Q&Aでわかる技術的ポイント

玉水新吾 著
四六判 224ページ 定価 本体1,900円＋税

第三版 建築基準法を読みこなすコツ

高木任之 著
四六判 280ページ 定価 本体2,600円＋税

「建築と社会」誌

特集一覧 ●1996～2017

大正6年3月に誕生した日本建築協会（当時・関西建築協会）の、機関誌は大正6年9月に「関西建築協会雑誌」と題して創刊された。大正8年に「日

本建築協会雑誌」、さらに1年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。取り上げてきた特集テーマは下記のと

おりで、バックナンバー購入希望は、日本建築協会事務局（TEL 06-6946-6981、FAX 06-6946-6984）まで。販売価格は1,230円（税込・送料別途）。

号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1996 vol.77	● 阪神大震災から学ぶ	● 大阪府住宅供給公社創立30周年記念*	● 遠江―その地方振興と文化*	● 立体駐車場設備 ● 大建設計	● 災害！非常時に生きる法体系 ● OAPタワーズ	● いま、プールがおもしろい	● 住まいの未来像	● マルチメディアが活躍する世界	● キーコンセプトの新時代	● 最新の大規模スポーツ競技施設の設備	● 私の空間作法*96 ● 九州の元気 ● りんくうの3作品	● 第43回青年技術者 ● 近畿地建協緒部
1997 vol.78	● 建築のロングライフ化をめざして	● 鉄ものがたり*	● 東海支部会員作品 ● 金沢・能登―風土・文化とまちなみ・建築*	● 創立80周年記念 ● 建築と私と社会―80人の眼―	● 木造建築物の伝統技術とその将来	● 住む空間の復興―法・制度の運用と新たな展開へ― ● 住都公団関西支社	● 素材の不思議 ● 大阪ドーム	● 新エネルギー ● 住宅・都市整備公団改革への提言	● クロスワード都市OSAKA*	● モザイク都市の住む人たち ● 昭和設計40周年	● 私の空間作法 ―会員作品―	● 第44回 青年技術者 ● 京都駅ビル
1998 vol.79	● 新しいまちづくりの予感 ● 東畑建築事務所創立65周年	● Concrete ● 九州とわたし、そして建築	● 東海支部会員作品 ● 信州―諏訪とその周辺―	● 街並みの演出―最近の外構材料	● 生活環境の安全・安心	● 地球環境保全と建築	● 心と体を元気にするインテリア	● 建築設備―ビルメンテナンスの立場から	● 建築への証言*98 ―21世紀に向けて―	● ゆれをとめる―たえざる技術からかわす技術へ	● 私の空間作法 ● 2001年の医療施設	● 第45回青年技術者 ● 駅とともに歩んだJR西日本の12年
1999 vol.80	● “らしさ”のデザイン ● 建築を結ぶる小粋なモノの仕掛人	● 大阪市都市整備局	● 東海支部会員作品*99 ● 北信濃―街並み風景と地域文化の再構築―	● 都市のパブリック	● 関西建築界の流れと東畑謙三の足跡をたどる	● 大阪城天守閣平成の大改修	● 改正建築基準法―まちづくりの展開―	● 私の目でみた環境問題	● アーバンインテリア―都市空間としてのインテリア	● 木とともに*	● 私の空間作法	● 第46回 青年技術者
2000 vol.81	● 21世紀のデザインの動向を見る ● 安井建築設計事務所所創業70周年*	● 中国支部―しなみ海道と中国地方の街づくり―	● 東海支部会員作品2000 ● 越中・富山―地域文化の振興と新たな展開―	● 東海支部会員作品2000 ● 越中・富山―地域文化の振興と新たな展開―	● 測る―測定方法と測定結果が意味するもの―	● スケルトン&インフィル	● 改正建築基準法―パートII―	● 100年後へのメッセージ ● 日建設計創業100周年	● 来世紀に引き継ぐ―わさ、もの、こころ―	● *	● 私の空間作法 ―会員作品― ● 21世紀の高齢者の居住環境	● 第47回 青年技術者
2001 vol.82	● エヌ・ティ・ティファシリティーズ*	● 21世紀の建築設計教育	● 東海支部会員作品 ● 岐阜・大垣	● IT社会におけるささず	● 自然素材をめぐる「もの・わざ・ひと」	● 成熟社会をささえるまちづくり	● 現代の日本の空間・文化を探る	● いま、インテリアデザインは ● 漢リバープレイス*	● 建築とボランティア	● 緊張 ● 都市基盤整備公団関西支社	● 私の空間作法 ―会員作品―	● 第48回 青年技術者 ● NHK大阪放送会館・大阪歴史博物館
2002 vol.83	● 国土交通省近畿地方整備局管轄部	● 再生・リサイクル	● 東海支部会員作品 ● 愛知・名古屋	● 生活環境の安全・安心 ―パート2―	● 塗装のいろいろ	● 都市再生に向けた建築基準法集団規定のあり方	● いま、インテリアデザインは ● 漢リバープレイス*	● 建築をささえるセンサー	● 建築とボランティア	● 時を超えて―サステナブルエンジニアリングの現在―	● 私の空間作法 ―会員作品―	● 第49回 青年技術者 ● 大阪市中央公会堂
2003 vol.84	● 東畑建築事務所創立70周年	● 九州の地域づくり・まちづくり	● 東海支部会員作品2003 ● 愛知・名古屋―二の地の文化・芸術と建築・街づくりを考える―	● サステナビリティ―光世代に引き継ぐ都市・建築・暮らしのデザイン―	● 建築と五感	● 都市計画法及び建築基準法等の改正	● コンバージョン―インテリアから発信するまちなみ―	● 介護と建築・設備	● 建築とノスタルジー―建築の主観的価値について―	● 力と楽しくつき合う方法	● 私の空間作法 ―会員作品―	● 第50回 青年技術者 ● 青年技術者顕彰50年
2004 vol.85	● 大阪市住宅局	● 都市緑化	● 東海支部会員作品 ● 愛・地球博*	● 省リスクな「まち再生」	● リニューアルの技	● 地域住民主体のまちづくりと支援制度	● Product Design+1	● 銭湯～心地よさを求めて～	● 建築家とは何か	● 巨大地震にそなえて	● 私の空間作法 ―会員作品―	● 第51回 青年技術者
2005 vol.86	● 震災から10年	● 「健やか」 ● 長崎医療センター	● 東海支部会員作品2005 ● 東海における施設づくりへの新たな試み	● 建築の経済化	● 住まい方の変化	● 人工栽培	● 次世代に伝える「木」の建築 ● 「建築と社会」1000号記念	● 改正建築基準法と景観緑三法	● 火災から守る	● 構造の過去から未来へ	● 私の空間作法 ―会員作品―*	● 第52回 青年技術者
2006 vol.87	● 都市環境デザインと参加のまちづくり	● 「地方空港の時代」～まちと共存する空港づくり～	● 東海支部会員作品2006 ● 十東海支部特集3部作	● 都市再生の本質～光と影のはざまで～	● 変容する家族形態とあたららしいライフスタイル	● 身近な省エネルギー～エネルギーをたぐい、有効利用する～	● 設計図が伝えるもの	● 建築物の安全・安心	● 第53回 青年技術者	● 「セキュリティ」	● もしも… ―構造が未来へつなぐ夢―	● 私の空間作法 ―会員作品―
2007 vol.88	● 光り輝く京都の景観まちづくり	● 学校新時代	● 東海支部会員作品2007 ● 十東海支部特集3部作	● 創立90周年記念―この10年、これからの10年	● あそび考	● ここのちが創る住まいのかたち	● 住まいの設備と空間の移り変わり	● 建築系雑誌が伝えるもの	● 建築基準法等大改正	● 第54回 青年技術者	● ガラスを考える	● 楽しい構造の世界
2008 vol.89	● 私の空間作法―会員作品―	● PFI事業、その後*	● 東海支部会員作品2008 ● 十東海支部特集3部作	● まちづくり2011年宣言	● 新ホテル物語	● 設備に役立つ地震対策	● 中国地方を訪ね歩いて見えるもの ● 小林聖心女子学院	● 建築と景観	● 第55回 青年技術者	● 木造住宅を巡って	● 建築においてROBOTが活躍する日は来るのか？	● 自然と戦う構造
2009 vol.90	● 私の空間作法―会員作品― ● 京阪電車 中之島線―新線が延伸する都市の発展―	● 水の都にぎわいのある未来に向けて	● 東海-TOKAI オムニバス	● 楽しい福祉	● 体感するインテリア	● 建築空間が求める空気環境（空気質）	● 建築と水	● 実用レベルで展開される施工管理のIT化	● 第56回 青年技術者	● 地域の歴史資産を活かしたまちづくり	● 第16回 会員作品特集 “私の空間作法”	● 構造家日記～頭の中をのぞいてみたら～
2010 vol.91	● 創業110周年記念特集 NIKKEN SEKKEI	● 建築とエコ技術	● 東海支部復活50周年記念号 東海-TOKAI オムニバス	● 食と建築・都市	● ホスピタリティのあるケア空間	● 太陽光発電	● 建築と石	● 再生・受け継ぐ・繋がる*	● 第57回 青年技術者	● 建築ストック社会の形成への展望	● LED照明の活用・将来を考える～人・地球への思いやり～	● 東京スカイツリー
2011 vol.92	● Uターン促進第一回地産地消再生実践試案～ストロガ活時代への挑戦～ 第17回 会員作品 “私の空間作法”	● BIMは設計を革新するか？	● 東海支部復活50周年記念号 東海-TOKAI オムニバス	● まちなかのサードプレイス	● 変遷する“身の置きどころ”	● ECO～建築設備が出来るECO技術～	● 建築と土	● 鉄道駅に注目する	● 第58回 青年技術者	● 火災に強い建築を考える	● コンクリートという素材	● 構造教育と社会
2012 vol.93	● 自然災害に立ち向かう力を求めて	● 今、私が思う「和」	● 東海支部特集	● 第18回 会員作品 “私の空間作法”	● 中国市場に挑む	● ZEB ネット・ゼロエネルギービルを目指して―低炭素社会の実現に向けて―	● 建築と窓	● 巨大地震に備える	● 第59回 青年技術者	● 超高齢社会に求められる住まい	● 歴史的建造物の保存活用	● 身のまわりの世界の「構造」を探る
2013 vol.94	● 東畑建築事務所創立80周年 U-35のまなざし ● 脱成長の時代を考える	● “らしくない”空間 ● 小特集 ● 中之島フェスティバルタワー	● 東海支部特集	● 第19回 会員作品 “私の空間作法”	● コミュニティの“かたち”―人と人のつながりを再考する―	● 無駄から見える節電	● 第60回 青年技術者	● グランフロント大阪	● 素材としての建築	● 建築に携わるものに求められること	● 木の街をつくる	● 実験
2014 vol.95	● エリアマネジメントの展開に向けて	● 融合する空間～新たな試み～	● 東海支部特集 ● 小特集 「ABENO REBORN」	● 第20回 会員作品 “私の空間作法”	● オフィスビル設備の変遷とこれから	● オフィスのこれから	● 第61回 青年技術者	● 建築と時間	● 省エネ・低炭素のこれまでとこれから	● 大阪・土町台地、あべのハルカス ● 複層・高度化する建築とその技術について	● でっかいものはすごいぞ	● 安井建築設計事務所90周年
2015 vol.96	● フォー・オールの時代に向けて	● 場をつくる～プログラムの挑戦～リノベーションのリアル	● 支部復活55周年記念 東海支部特集	● 第21回 会員作品 “私の空間作法”	● あかり・文化・創造	● これからの学びのかたち	● 第62回 青年技術者	● 建築の価値	● 空き家と向き合う	● 職人がいなくなる!!オリンピックと10年後に備えて	● 形態にあらわれた構造	● 「図面」を替える～BIMの深化が誘う建設プロセスの変革～
2016 vol.97	● 都市の記憶をたどって	● 非日常の棲み処～寝泊まりの進化	● 東海支部特集	● 第22回 会員作品 “私の空間作法”	● 人の移動・物の移動・情報の移動	● 第63回 青年技術者	● おもてなしと建築	● UR都市機構西日本支社～暮らしの先駆けのまちづくり	● 人口減少社会のまちづくり	● 見えないうものを語る～新たな技術による施工管理・検査システムへの展開～	● 構造を支える人と技術のつながり	● ボーダレス～消失する境界と拡張する領域
2017 vol.98	● ニュータウンから学ぶこれからの「計画」	● 第23回 会員作品 “私の空間作法”	● 日本の「建築と社会を繋ぐ」プロジェクト100	● 東海支部特集	● 建築設備の伝統と革新	● 第64回 青年技術者	● 100年前の建築、100年後の建築～意匠・空間の視点から～	● 観光立国を目指した宿泊施設について	● 100年前の建築、100年後の建築～施工・材料の視点から～	● 社会と繋がるディテール	● 関西で木と生きる	● 時間軸に挑むクリエイター達～時をデザインするということ

*は欠号

**お客様の抱える問題やニーズに
より速やかに、より丁寧に対応できるように**

企画・デザイン、制作、製版、印刷

株式会社 中島弘文堂印刷所

本 社 〒537-0002 大阪市東成区深江南2丁目6番8号
TEL.06-6976-8761 / FAX.06-6976-8765

東京支社 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1丁目4-2 風雲堂別館ビル2階
TEL.03-3526-5580 / FAX.03-3526-5582

<http://www.n-kobundo.co.jp/>

地球環境を守り、100年建築に貢献する

NACL のアルミ表面処理

株式会社 日本電気化学工業所

<http://nacl.jp> E-mail: sc@nacl.co.jp

本部営業部 〒560-0036 大阪府豊中市蛍池西町2丁目7番26号 NACLビル2階

TEL (06)6843-1235(代) FAX (06)6853-1632

東京事務所 〒111-0051 東京都台東区蔵前2丁目6-7

TEL (03)3862-0978(代) FAX (03)3862-7098

年間広告のご案内

会誌「建築と社会」では、後付部分に
広告スペースを設けております。

1年を通じて、社名広告を掲載されませんか？

掲載期間：4月号～翌年3月号までの1年間

掲 載 料：48,000円（消費税込み）

サ イ ズ：1/12頁（タテ40mm×ヨコ90mm）

※毎月掲載誌をご送付します。

※原稿は1年間同じ原稿を使用します。

お問い合わせ先

一般社団法人 日本建築協会 内山・井筒

TEL：06-6946-6981 FAX：06-6946-6984 E-mail：koukoku@aaj.or.jp



より安全性の高い天井を目指して

左上:中央大学多摩キャンパス 右下:日ノ本学園高等学校チャペル

在来天井とグリッドシステム天井のメリットを融合した新耐震天井工法

ダイケンハイブリッド天井

特定天井
対応可能

高い耐震性能と省施工を両立します。

Peace of Mind

**安心
安全**

Safety

「ユニット試験」にて、
水平許容耐力:最大
4,000Nを確認

Easy

**簡単
施工**

Installation

主要接合部はワン
タッチ。ビス留め
不要。

Work Period

**工期
短縮**

Shortening

耐震ブレースの設置
数を減少できるため、
施工が楽に。

Economic

**経済
設計**

Planning

品質とバランスの取
れた、予算に応じた
耐震設計が可能。

大建工業株式会社

エンジニアリング事業企画部(東京)

URL <https://www.daiken.jp/>

TEL 03-6271-7767

ダイケンハイブリッド 検索